



FUKUOKA
NURSING
COLLEGE

2023年度 シラバス

第3学年
(2021年以前入学生対応)

科目ナンバリングのコード配分規則

(例) DN011001

DN 01 1 001

	学部	学年水準	履修区分	通し番号
(例)	DN (看護学部)	01 (第1学年)	1 (必修)	001 (先頭の科目)
詳細	別表1	別表2	別表3	別表4

別表1

識別文字	学科名等	英語標記
DN	看護学科	Department of Nursing

別表2

番号	付加情報
00	導入レベル
01	1年
02	2年
03	3年
04	4年
07	共通
08	単位互換科目

別表3

番号	付加情報
0	なし
1	必修
2	選択必修
3	選択
4	自由科目
9	その他

別表4 (看護学部看護学科)

番号	科目分野	科目区分
001 ~ 400	基礎分野	思考力 001 ~ 表現力 71 ~ 人間と生活 141 ~ 文化と社会 211 ~ 人としての態度 281 ~ 基礎学力 351 ~
401 ~ 600	専門基礎分野	人体の構造と機能 401 ~ 疾病の成り立ちと回復の促進 451 ~ 健康支援と社会保障制度 501 ~ 健康現象の疫学と統計 551 ~
601 ~ 800	専門分野	基礎看護学 601 ~ 健康支援看護学 651 ~ 地域・在宅看護学 701 ~ 統合・実践 751 ~

目次

3年

課程表（看護師養成課程・保健師養成課程）

科目ナンバリングコード配分規則

【前期】 ※科目名をクリックすると当該科目のシラバスページになります

必修科目

科目名	区分	ページ
健康回復支援論演習	演習	3
母性看護論演習	演習	6
小児看護論	講義	9
小児看護論演習	演習	11
精神看護論演習	演習	14
在宅看護論	講義	17
在宅看護論演習	演習	19
在宅高齢者ケア	演習	22
看護研究方法論	講義	24

選択科目

科目名	区分	ページ
※公衆衛生看護活動論Ⅱ (組織・集団・地域支援方法)	演習	26
※公衆衛生看護活動論Ⅲ (対象別公衆衛生看護活動論)	講義	29

※1 保健師課程の学生については、必修科目となる。

公衆衛生看護活動論Ⅱ

公衆衛生看護活動論Ⅲ

【後期】 ※科目名をクリックすると当該科目のシラバスページになります

必修科目

科目名	区分	ページ
急性期・回復期看護学実習	実習	31
慢性期・終末期看護学実習	実習	33
母性看護学実習	実習	35
小児看護学実習	実習	37
精神看護学実習	実習	40
高齢者看護学看護実習	実習	42
在宅高齢看護学実習	実習	44
訪問看護論実習	実習	46

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031661	専門	必修	健康回復支援論演習	演習	2	60	30	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1. 2. 3. 4. 6. 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：岩本利恵 担当教員：岩本利恵、内田荘平、末永陽子、秋永和之、山元万里子、有永麻里								
授業の目的とねらい								
<p>本科目では、成人の対象者への健康障害の特徴に応じた看護過程の展開方法を学ぶとともに、対象者の健康障害に応じたフィジカルアセスメント技術を理解し、健康回復の支援に必要な援助技術を修得することを目指す。クリティカル期、急性期、回復期、慢性期、緩和期、終末期とそれぞれでの対象者およびその家族に対するアセスメントする能力、その支援をする技術、看護について修得する。</p> <p>この科目は、毎回の事前学習課題を実施する。また事前学習を活用しながら、演習を実施する。</p> <p>この科目では、グループディスカッション、シミュレーションがあり、積極的な学習が求められる。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容)</p> <p>公立病院や大学付属病院における成人看護期(急性期・回復期・慢性期・終末期)の経験、社会貢献、研究活動等での成人期の対象者および家族との関わりから、急性期においては疾患の症状、および治療による侵襲からの回復・リハビリテーション、を通してよりよいwell-beingを目指した支援及び退院指導について教育する。慢性期においては疾病とともに生きる対象者および家族の最適な暮らし(well-being)を目指した看護の方法、実践を指導する。セルフマネジメント、セルフケアの自立のための患者教育、指導についても教育する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術を受ける患者の心身の特徴を踏まえた術前看護について説明できる。 2) クリティカルな状態にある術後患者の療養環境について説明できる。 3) 身体モニタリングの体験を通して、術直後のアセスメントの視点や具体的方法について説明できる。 4) 術後離床の支援について説明できる。 5) 術後患者の回復過程にある患者の退院指導の特徴について説明できる。 6) 簡易血糖測定、自己血糖測定の目的について説明できる。 <p>2. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループディスカッションに積極的に参加する。 2) コミュニケーションをとり、協働する。 3) 自ら学べるように積極的に学習する。 <p>3. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性期、慢性期にある対象者への健康障害の特徴に応じた看護過程の展開ができる。 2) クリティカルな状態にある術後患者の療養環境を整えることができる。 3) 身体モニタリングの体験を通して、術直後のアセスメントの視点や具体的方法が実施できる。 4) 術後離床の支援ができる。 5) CPRを実施することができる。 6) 簡易血糖測定、自己血糖測定が安全、安楽に実施できる。 7) 対象者およびその家族の自分らしい生活を考慮した退院指導が実施できる。 8) 慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援ができる。 9) 片麻痺にある対象者の口腔アセスメント、口腔ケアが実施できる。 10) 対象者およびその家族の予期的悲嘆、悲嘆に対する悲嘆に対するコミュニケーションができる。 								
準備学習								
毎回、事例を活用した事前レポート課題を課すため、事前学習をして講義、グループディスカッションに約90分/週を費やすこと。また講義で実施した小テスト、配布資料はポートフォリオとして整理すること。								
成績評価基準								
実技テスト60%、レポート(事前学習課題、看護過程)40%とする。事前学習課題は、A～Dの5段階評価とする。看護過程は、評価表を基に評価する。								
課題等に対するフィードバック								
事前学習課題に対しては、個別の評価を実施し、コメントを行う。演習での技術習得については、その都度教員からの指導を実施する。修得が不十分な技術に対しては、反復してトレーニングができるように調整する。								
教科書・参考書など								
<p>【教科書】</p> <p>看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 看護学テキストシリーズ NiCE 成人看護学 成人看護技術 南江堂</p> <p>【参考書】</p> <p>川島みどり 監「完全版 ビジュアル基礎看護技術ガイド」照林社 本郷久美子 監訳「基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版」医学書院</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	内田、末永、秋永、岩本、山元、有永	ユニット1・急性期における看護過程 1. 演習スケジュール、および看護過程展開方法を理解できる。 2. 周術期の看護過程の特徴となる看護問題の捉え方を理解できる。
2	末永、内田、秋永、岩本、山元、有永	周術期にある患者の事例をもとに、情報を収集し、分類ができる
3 4	末永、内田、秋永、岩本、山元、有永	ユニット1・急性期における看護過程 1. 分類した情報をアセスメントし、看護過程を展開できる。 看護関連図を作成し、看護問題の抽出過程を整理することができる。
5	末永、内田、秋永、岩本、山元、有永	ユニット2・周手術期の看護 1. 手術を受ける患者の心身の特徴を踏まえた術前看護について理解する。
6	内田、秋永、岩本、山元、有永	ユニット2 周術期の看護 1. 手術を受ける患者の療養環境の実際を見学し、術後ベッドの作成過程と根拠を理解する。 身体モニタリングの実際を見学し、術直後アセスメントの視点や具体的方法を理解する。
7 8	内田、末永、秋永、岩本、山元、有永	ユニット2・周手術期の看護 1. 身体モニタリングを実施し、術直後アセスメントの視点や具体的方法を理解する。
9 10	内田、末永、秋永、岩本、山元、有永	ユニット2 周術期の看護 1. 異なる事例のシミュレーションをとおして、身体モニタリングの方法とアセスメントを踏まえた看護介入について理解する。
11	末永、内田、秋永、岩本、山元、有永	ユニット2 周術期の看護 1. アセスメント、診断の方法と根拠、診断の優先順位、目標設定について学ぶ。
12	秋永、内田、末永、岩本、山元、有永	ユニット2・周手術期の看護 1. 事例を基に、術後離床の支援について理解する。
13 14	秋永、内田、末永、岩本、山元、有永	ユニット3・クリティカル看護 1. 急変時の看護ができる。 1) 急変時の初期対応を理解し、看護師の役割を説明することができる。
15	末永、内田、秋永、岩本、山元、有永	ユニット2・周手術期の看護 1. 看護計画の立案について学ぶ。
16	山元、岩本、有永、内田、末永、秋永	ユニット4・慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（片麻痺） 1. 脳梗塞により片麻痺のある対象者に対する口腔ケアについて理解する。
17	岩本、山元、有永	ユニット・4 慢性疾患における看護過程 事例（糖尿病） 1. 成人期の慢性期・終末期の看護過程の学習方法とアセスメントが理解できる。
18	岩本、山元、有永	ユニット・4 慢性疾患における看護過程 1. 病態、成り行き、生活背景をもとにアセスメントから、関連図が記載できる。
19	岩本、山元、有永	ユニット・4 慢性疾患における看護過程 1. 個別性に応じた well-being を目指した看護計画が立案できる。
20	岩本、山元、有永	ユニット・5 慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（糖尿病） 1. セルフマネジメントを促す教育指導について指導案を作成できる。
21	山元、岩本、有永	ユニット・5 慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例（糖尿病） 1. 退院後のセルフマネジメントを促す教育指導について実施できる
22	岩本、山元、有永、内田、末永、秋永	ユニット・4 慢性疾患における看護過程 1. 糖尿病を持つ対象者の血糖測定を理解し、実施できる。
23	有永、岩本、山元	ユニット・4 慢性疾患における看護過程 1. 糖尿病の対象者のセルフマネジメントのための血糖自己測定を理解し、患者教育できる。

24	岩本、山元、 有永	ユニット・4 慢性疾患における看護過程 1. 実施した看護を基に経過記録、看護計画の記載、追加、修正ができる。
25 26	岩本、山元、 有永、内田、 末永、秋永	ユニット2 慢性疾患を持つ対象者の日常生活支援 事例(慢性心不全) 1. 慢性心不全患者に対する日常生活指導の必要性を判断する。
27	岩本、山元、 有永、内田、 末永、秋永	ユニット・5 慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例(肝臓がん) 1. 肝不全患者に対する日常生活上の指導の必要性を判断し実施する。 1) 腹水、下肢の浮腫を観察し、日常生活における留意点についてアセスメントができる。
28 29	山元、岩本、 有永、内田、 末永、秋永	ユニット・5 慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメント支援 事例(慢性呼吸不全) 1. シミュレーション学習を通して慢性呼吸不全患者に対するポジショニングと呼吸法が適切に行われているか判断し必要な看護を実施する。
30	岩本、山元、 有永、内田、 末永、秋永	ユニット・4 慢性期・終末期におけるコミュニケーション技術事例：不安 1. 不安や悲嘆の強い対象者へのコミュニケーション技術を理解する。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031662	専門	必修	母性看護論演習	演習	2	60	30	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1、2、3、4								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：中西真美子 担当教員：藤岡奈美 中西真美子								
授業の目的とねらい								
【目的】 マタニティサイクルにある母子およびその家族の特徴と健康問題を査定し、妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族への看護の方法について理解できる。								
到達目標								
【目標】 1. 妊婦体験を通して、妊娠による心身の変化と日常生活に及ぼす影響、看護者としてのケアや支援を考えることができる。 2. 紙上事例を通して、計画立案までの母性看護の看護過程の展開ができる。 3. 技術演習により、母性看護の基本的看護技術を実践し、その方法について説明できる。								
準備学習								
母性看護概論、母性看護論で課題学習したレポートや配布資料等を再度、確認しておくこと。								
成績評価基準 定期試験 50%、演習時の学びレポート 10%、看護過程展開 40%								
課題等に対するフィードバック								
「母性看護論演習」では実習で経験する各期に看護過程の展開で活用する知識を学習する機会になる。								
教科書・参考書など								
教科書：森 恵美 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論 医学書院 2020 池田 正ほか著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院 2016 参考書：								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	藤岡奈美	【授業計画(1回目)】 授業ガイダンス ウェルネスと母性の看護過程 演習スケジュール、および看護過程展開方法を理解できる。 ウェルネス思考による計画立案方法について学ぶ						
2	藤岡奈美	【授業計画(2回目)】 妊娠期の看護過程 妊娠期事例を提示し、情報を収集し、分類ができる。 分類した情報を分析しアセスメントし、看護過程を展開できる。 ウェルネス診断を立てる事ができる。また、その方法、根拠を学ぶ 学んだ根拠を基に、看護計画を立案する						
3 4	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(3回目)】【授業計画(4回目)】 妊娠期演習Ⅰ 妊娠期演習Ⅱ 妊娠期にある女性の身体的変化を体験し、健康増進のためのケアを習得できる（妊婦体操、妊婦疑似体験）						
5 6	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(5回目)】【授業計画(6回目)】 妊娠期演習Ⅲ 妊娠期演習Ⅳ 妊娠期の看護に必要な技術の習得ができる（腹囲・子宮底の測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取）						

7 8	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(7回目)】【授業計画(8回目)】 分娩期演習Ⅰ分娩期演習Ⅱ 分娩期経過におけるケア方法を習得でき、産婦への適切な支援ができる(弛緩法、呼吸法補助動作) 分娩第4期のケア方法について学ぶ
9 10	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(9回目)】【授業計画(10回目)】 分娩期演習Ⅲ分娩期演習Ⅳ 胎児心拍監視装置が装着でき、得られた波形を判読できる 胎盤の精査方法について学ぶ
11	中西真美子	【授業計画(11回目)】 妊娠期の看護過程展開方法 妊娠期看護過程の展開方法について解説し(講義)
12	藤岡奈美	【授業計画(12回目)】 マタニティサイクルにおける保健指導 産褥期・新生児の看護過程の展開方法 産褥期の事例を提示し、産褥期・新生児の看護過程の展開方法について学ぶ。 提示した情報を分析、アセスメントし、診断を立案していく看護過程の展開について、その方法、根拠を学ぶ。また、学んだ根拠を基に、看護診断を立案する
13 14	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(13回目)】【授業計画(14回目)】 産褥期演習Ⅰ産褥期演習Ⅱ 退行性変化の観察と諸計測、ケア方法を学ぶ産褥体操の目的と効果、および実践方法を学ぶ
15 16	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(15回目)】【授業計画(16回目)】 産褥期演習Ⅲ産褥期演習Ⅳ 進行性変化と母乳栄養確立に向けての支援方法を学ぶ 授乳のケア(乳頭・乳房マッサージ)の手技が習得できる
17 18	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(17回目)】【授業計画(18回目)】 新生児演習Ⅰ新生児演習Ⅱ 新生児の観察と計測(発育・成熟と子宮外生活への適応)方法を学ぶ
19 20	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(19回目)】【授業計画(20回目)】 新生児演習Ⅲ新生児演習Ⅳ だっこ、おむつ交換、授乳、調乳、沐浴、ディベロップメンタルケアについて、その方法を学ぶ
21 22	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(21回目)】【授業計画(22回目)】 新生児演習Ⅴ 更衣、沐浴技術を習得する
23 24	藤岡奈美	【授業計画(23回目)】【授業計画(24回目)】 産褥期・新生児期の看護過程展開方法①②(講義) 産褥・新生児の情のアセスメント・診断の方法と根拠、診断の優先順位、目標設定について学ぶ
25 26	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(25回目)】【授業計画(26回目)】 事例検討した初産婦に対するセルフケア能力を高める保健指導案の構想①② グループワークにて、事例検討した初産婦に対するセルフケア能力を高める保健指導案の構想(乳房ケア、栄養指導、沐浴指導など)実践のための媒体を作成する

27 - 30	藤岡奈美 中西真美子	【授業計画(27-30回目)】 保健指導演習①②③④ 事例検討した初産婦に対する母乳育児確立・母親役割獲得へのセルフケア能力を高める保健指導の実施
---------------	---------------	--

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講時期
DN031663	専門	必修	小児看護論	講義	1	30	15	3年前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 2・3・4								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：飯野英親 担当教員：飯野英親 青野広子								
授業の目的とねらい								
<p>この科目では、小児看護学概論で学んだ子どもと家族への看護に関する基本的知識が必要です。その知識を踏まえ、健康障害をもつ子どもと家族を対象とした、疾病を有する罹患状況における具体的な看護を学び、子どもと家族の最適な生活（well-being）を目指すことができる小児看護の知識・考え方を修得することを目指す。</p> <p>子どもは成長発達が目覚ましい時期であり、その子どもの成長発達段階に応じた関わり方を重要視するとともに、子どもの成長・発達を促すことができる看護と家族に対する看護の方法について学修する。健康障害をもつ子どもとその家族は、特有の健康課題をもっている場合があり、様々な子どもの事例を通し、子どもと家族を身体的・精神的・社会的な視点から捉え、ケア・支援する方法を学修する。</p> <p>本科目の学修成果は、主に筆記試験で確認する。</p> <p>（実務経験を生かした教育内容）</p> <p>大学附属病院等での小児臨床看護経験をいかし、子どもの療養生活支援と診療介助技術に関する知識・技術を、こどもの発達に応じて、臨床で経験した事例を基に教授する。また、家族・親族・学校との対応等、医療者間の連携に関しても実務で経験した事例を基に教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 対象の子どもの全体像の理解（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害をもつ子どもと家族の特徴について説明することができる。 2) 健康障害をもつ子どもと家族への看護について説明することができる。 3) 日常生活における制限と看護（個室隔離、活動制限、食事制限）について説明することができる。 4) 子どもへのプレパレーションの方法と効果について説明することができる。 5) 小児看護における多職種連携について説明することができる。 6) 重症心身障害児、医療的ケア児、在宅療養が必要な子どもと家族の特徴と必要な看護について説明することができる。 7) 災害が子どもと家族に及ぼす影響と必要な看護について説明することができる。 8) 小児科外来における看護について説明することができる。 9) 小児緩和ケアについて説明することができる。 10) 小児看護における倫理的課題、小児の虐待事例と病院での対応について説明することができる。 <p>2. 態度形成（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各授業に関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 小児看護を学ぶ積極的な学修態度を養う。 3) 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図、キーワードを中心に、講義内容を復習する。 <p>3. スキル形成（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども、家族と適切なコミュニケーションを取り方について調べることができる。 2) 小児看護における事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。 3) 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。 								
準備学習								
小児、家族に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で60時間とする。								
成績評価基準								
筆記試験（80%）、課題に対する回答内容（20%）を総合して評価する。提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。								
課題等に対するフィードバック								
復習を兼ねた課題等がある。課題に対する評価、必要時はコメント記入後に返却し、復習と今後の発展学習に生かすことができるよう解説を行う。								
教科書・参考書など								
教科書：奈良間美保他 著 系統看護学講座 専門分野 22 小児看護学 [1] 医学書院 奈良間美保他 著 系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 医学書院								

参考書：中野綾美他 著 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学 (1) 小児の発達と看護」メディカ出版
 中野綾美他 著 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学 (2) 小児看護技術」メディカ出版
 中野綾美他 著 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学 (3) 小児の疾患と看護」メディカ出版
 その他適宜提示する

授業内容

回	担当 教員	授業内容
1	飯野	ユニット1 健康障害や入院が子どもと家族・同胞に与える影響 ユニット1 健康障害や入院が子どもと家族・同胞に与える影響と看護について理解する。
2	飯野	ユニット2 さまざまな症状を示す子どもと家族の看護1 発熱、頭痛、脱水、嘔吐下痢、呼吸困難、腹痛の子どもと家族へのケアについて学ぶ。
3	青野	ユニット2 さまざまな症状を示す子どもと家族の看護2 浮腫、黄疸、けいれん、疼痛、出血傾向、易感染の子どもと家族へのケアについて学ぶ。
4	飯野	ユニット3 医療状況に応じた子どもと家族の看護 健康障害やそれに伴う治療・検査・処置が子どもと家族に与える影響と看護について学ぶ。
5	飯野	ユニット3 医療状況に応じた子どもと家族の看護 日常生活における制限（個室隔離、活動制限、食事制限）と看護について学ぶ。
6	飯野	ユニット4 新生児および周産期疾患、先天性疾患を有する子どもと家族の看護 1) 新生児および周産期疾患、先天性疾患について概要を学ぶ。 2) 新生児及び周産期疾患、先天性疾患を有する子どもを養育する家族の心理変化と家族の生活を支える看護の役割について学ぶ。 3) 退院支援、病院・保健所・保健センター・地域・学校との連携内容について学ぶ。
7	飯野	ユニット5 代謝性疾患・内分泌疾患を有する子どもと家族の看護 1) 代謝性疾患・内分泌疾患を有する子どもと家族を理解する視点について学ぶ。 2) 代謝性疾患・内分泌疾患を有する子どもと家族の看護について学ぶ。
8	飯野	ユニット6 感染症・免疫・アレルギー疾患を有する子どもと家族の看護 1) 子どもに多い感染症疾患の特徴、予防接種の種類、接種時期について学ぶ。 2) 感染症・免疫・アレルギー疾患を有する子どもと家族の看護について学ぶ。 3) アナフィラキシーショック時のエピペンの使用について学ぶ。
9	青野	ユニット7 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族の看護 医療的ケアを要する子どもと家族に及ぼす影響と、看護の役割について学ぶ。
10	青野	ユニット8 腎疾患を有する子どもと家族の看護 腎疾患（糸球体・尿路系疾患を含む。以下同様）を有する子どもと家族に及ぼす影響と、看護の役割について学ぶ。
11	飯野	ユニット9 消化器疾患（口腔・食道・腸）を有する子どもと家族の看護 消化器疾患（口腔・食道・腸）を有する子どもと家族に及ぼす影響と、看護の役割について学ぶ。
12	青野	ユニット10 先天性心疾患を有する子どもと家族の看護 1) 先天性心疾患の概要を学ぶ。 2) 先天性心疾患を有する子どもと家族の心理変化と看護の役割について学ぶ。 3) 小児における心臓カテーテル検査時の援助について学ぶ。
13	飯野	ユニット11 災害を受けた子どもと家族の看護 災害を受けた子どもと家族への影響と、看護の役割について学ぶ。
14	青野	ユニット12 外来における子どもと家族の看護 外来通院や入院が必要な子どもと家族への看護について学ぶ。
15	飯野	ユニット13 残された時間を生きる子どもと家族への看護（小児期ターミナルケア） 残された時間を生きる子どもと家族への看護について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講時期
DN031664	専門	必修	小児看護論演習	演習	2	60	30	3年前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1・2・3・4・6								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：飯野英親 担当教員：飯野英親 青野広子								
授業の目的とねらい								
<p>この科目では、小児看護学概論、小児看護論で学んだ子どもと家族への医療・看護・福祉に関する知識が必要となる。その知識を踏まえ、疾患を有する子どもの事例を通して健康障害をもつ子どもの成長発達評価、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの枠組みを理解し、成長発達や健康状態をアセスメントする方法を習得すること、必要な援助技術・診療介助技術を習得することを目指す。また、家族や養育環境のアセスメントを実施し、必要な看護介入について考え、最適な生活（well-being）を目指す援助方法について検討することができる能力を習得する。</p> <p>本科目の学修成果は、筆記試験、課題レポート、授業態度・積極性で確認する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 大学附属病院等での小児臨床看護経験をいかし、子どもの療養生活支援と診療介助技術に関する知識・技術を、子どもの発達に応じて、臨床で経験した事例を基に教授する。また、家族・親族・学校との対応等、医療者間の連携に関しても実務で経験した事例を基に教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの発達段階に応じた安全を確保する看護実践について説明することができる。 2) 子どもの全身状態を把握するための観察とフィジカルアセスメントの方法について説明することができる。 3) 子どもと家族の看護アセスメントを行う視点について説明することができる。 4) 子どもの発達段階に応じた口腔管理についての支援の視点について分類し、説明することができる。 5) 健康障害をもつ子どもと家族の最適な生活（well-being）を目指した支援について、事例を通して看護実践の方法を説明することができる。 <p>2. 態度形成（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各授業に関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 小児看護を学ぶ積極的な学修態度を養う。 3) 提示された課題について、自己で取り組むことができ、不明な点は積極的に尋ねることができる。 4) ディスカッションでは積極的な進行や発言する姿勢を見せることができる。 5) 修得が必要な看護技術について、自己練習を積み、修得に向けた自己研鑽を行うことができる。 <p>3. スキル形成（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床場面を想定した中で、子どもへのプレパレーションを実施することができる。 2) 小児看護における事例やトピックスを基に、課題探求力を身につけることができる。 3) 提示された事例に対し、自分の考え・判断を基に看護実践の方向性を見出し、一部実施することができる。 								
準備学習								
小児、家族に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で15時間とする。								
成績評価基準								
筆記試験（50点）、課題に対する回答内容（40点）、授業態度・積極性（10点）を総合して評価する。提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。								
課題等に対するフィードバック								
課題は主に疾病を有する子どもと家族に対する看護過程に関連する記録となる。提出を求めた課題に対しては評価後に返却し、復習、今後の学習に生かすことができるよう解説を行う。								
教科書・参考書など								
教科書：奈良間美保他 著 系統看護学講座 専門分野 22 小児看護学 [1] 医学書院 奈良間美保他 著 系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 医学書院								
参考書：中野綾美他 著 「ナースング・グラフィカ 小児看護学 (1) 小児の発達と看護」 メディカ出版 中野綾美他 著 「ナースング・グラフィカ 小児看護学 (2) 小児看護技術」 メディカ出版 中野綾美他 著 「ナースング・グラフィカ 小児看護学 (3) 小児の疾患と看護」 メディカ出版 その他適宜提示する								
授業内容								

回	担当 教員	授業内容
1, 2	飯野 青野	ユニット 1 小児看護アセスメント、看護過程オリエンテーション 講義・準備学習 健康障害を持つ子どもの家族に関する看護アセスメントについて学ぶ。事例を基に、小児と家族に対する情報収集の視点について学ぶ。 *準備学習：学童前期の特徴の資料。 「小学校2年生&生活」 「小学校の一日：運動、知的好奇心、食事」 「小児科病棟は今」
3, 4	飯野 青野	ユニット 2 小児における看護過程、事例患児の情報収集：講義・調査学習 事例：小児がん（事例患児の全体像把握） ゴードンの機能的健康パターンと事例の全体像について学ぶ。事例の全体像を関連図にまとめ、整理する方法を学ぶ。
5, 6	飯野 青野	ユニット 3 事例：小児がん（事例患児の全体像把握）：講義・調査学習 ゴードンの機能的健康パターンを活用し、事例の全体像を関連図にまとめ、整理する方法を学ぶ。 小児における看護過程（看護問題の抽出と看護計画立案） 事例の健康上の看護問題と看護計画立案について学ぶ。
7, 8	飯野 青野	ユニット 4 事例患児の健康上の問題に関する看護問題の抽出と看護計画立案 講義・グループワーク 事例の健康上の看護問題と看護計画について学ぶ。
9, 10	飯野 青野	ユニット 4 事例患児の健康上の問題に関する看護問題と看護計画の発表 プレゼンテーション・ディスカッション・看護計画の修正 同事例において、全体像とフォーカスアセスメント、看護計画についてプレゼンテーション、ディスカッション、看護計画の修正を行う。
11, 12	飯野 青野	ユニット 5-1 小児看護技術（フィジカルアセスメント）：講義・調査学習 小児の特徴を踏まえた看護技術（フィジカルアセスメント、バイタルサイン測定）について学ぶ。子どもの全身状態の観察を実施する方法について学ぶ。
13, 14	飯野 青野	ユニット 5-2 小児看護技術（フィジカルアセスメント）：ロールプレイ 小児の特徴を踏まえた看護技術（フィジカルアセスメント、バイタルサイン測定）について学ぶ。 ロールプレイを通して、子どもの全身状態の観察を実施する方法について学ぶ。また、実践の課題について検討を通して学ぶ。
15, 16	飯野 青野	ユニット 5-3 小児看護技術（プレパレーション、ディストラクション） 講義・調査学習 小児の特徴を踏まえた看護技術（プレパレーション、ディストラクション）について学ぶ。
17, 18	飯野 青野	ユニット 5-4 小児看護技術（プレパレーション、ディストラクション） ロールプレイ 小児の特徴を踏まえた看護技術（プレパレーション、ディストラクション）について学ぶ。ロールプレイを通して、プレパレーション、ディストラクションを実施する方法を学ぶ。また、実践の課題について検討を通して学ぶ。
19, 20	飯野 青野	ユニット 5-5 小児看護技術（採血、輸液管理、骨髄穿刺、腰椎穿刺、与薬） 講義・グループワーク 小児看護における採血、輸液管理について学ぶ。 小児の骨髄穿刺、腰椎穿刺時の看護について学ぶ。 小児の与薬の技術について学ぶ。
21, 22	飯野 青野	ユニット 6 小児看護実践の評価：調査学習 事例の看護問題と看護計画について修正する。 自己の実践を踏まえた、患児の健康状態の評価方法について学ぶ。
23, 24	飯野 青野	ユニット 7-1 子どもの口腔機能のアセスメントとケア：事前学習型授業 健康な子どもの口腔内発達について学ぶ。 健康な子どもの口腔内発達、発達段階に応じたケア物品について学ぶ。 健康な子どもの口腔衛生管理を支援する方法について学ぶ。
25, 26	飯野 青野	ユニット 7-2 子どもの口腔機能のアセスメントとケア：双方向型授業 健康な子どもの口腔衛生管理を支援する方法について計画をもとに実践する。
27, 28	飯野 青野	ユニット 8 子どもに対する危険予知・医療安全・感染対策 講義・グループワーク 健康な子ども、健康障害をもつ子どもについて、発達段階を踏まえた子どもの看護を行う上での危険予知について学ぶ。子どもの看護を行う際に起こりやすい医療事故について学ぶ。小児病棟、保育園における感染対策について学ぶ。

29, 30	飯野 青野	ユニット9 小児看護における倫理的問題への対応 看護者の倫理綱領について学ぶ。 児童の権利に関する条約について学ぶ。 子どものアドボケイトについて学ぶ。
--------	----------	---

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN131775	専門	必修	精神看護論演習	演習	2	60	30	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 123467								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：中島富有子 担当教員：中島富有子、原やよい、黒岩千翔								
授業の目的とねらい								
<p>3年生前期にあるこの科目では、精神看護学概論及び精神看護論の授業内容を活用しながら、精神的健康の保持・増進・回復に向けた精神看護方法の修得を目的とする。精神看護の基盤となる援助的コミュニケーションに基づく人間関係構築方法を修得し、事例を通して入院から地域生活における継続した精神看護を学ぶ。</p> <p>具体的な学習内容として、精神的健康支援に必要なコミュニケーション方法、精神症状に応じた看護、セルフケア能力を高める支援、認知行動療法、法律や社会資源の活用方法、他職種との協調・協働方法などである。さらに、統合失調症患者の事例を使い、看護過程の展開方法を学習する。入院治療を受ける精神障害者の精神的健康回復に向けた看護から、その人らしく社会生活を送るための精神看護について学ぶ。</p> <p>教育方法として、講義に加え、グループワーク、実技演習、ロールプレイ、模擬実習型シミュレーション（問題解決型演習）などを取り入れ、理解を深められるようにする。最適な生活（well-being）に向けた精神看護が、理解できるように教授する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>教員が持つ公立病院等の精神科病棟、精神科デイケアにおける精神看護の実務経験を活かし、さまざまな精神の健康レベルにある対象者の最適な生活（well-being）に向け、精神的健康を保持・増進・回復する看護を教授する。さらに、実務経験を基に、他職種と協調・協働した医療を提供する方法、入院から地域まで継続した看護について教授していく。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害者の意思、健康状態や治療、家族の状況を踏まえ、紙上事例のアセスメントができる。 2) 紙上事例について退院後に最適な生活（well-being）を送るために、解決すべき健康上の問題を説明ができる。 3) 健康上の問題について、原因および誘因、成り行き、精神障害者および家族の対処能力を説明できる。 4) 紙上事例の全体像を ICF の関連図および病態関連図で説明できる。 5) 安全・安楽・自立を踏まえた看護計画が立案できる。 <p>2. 態度形成 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護を提供するために必要な倫理観を養う。 2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度を養う。 <p>3. 技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護を実践するためのコミュニケーション技術が修得できる。 2) 精神障害者のアセスメント方法を修得できる。 3) アセスメント結果を踏まえて、ICF の関連図および病態関連図を使い、患者の全体像捉える方法を修得できる。 4) 精神障害者の健康上の問題を明らかにする方法を修得する。 5) 科学的根拠に基づく看護目標・看護計画立案方法が修得できる。 6) 看護計画に基づき、患者の状態を観察しながら看護を実施する方法が修得できる。 7) 精神的健康に向けた看護の評価方法が修得できる。 								
準備学習								
<p>授業前にシラバスで学習項目と行動目標を確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく。本科目は、看護技術の修得も必要な科目であるため、演習項目については、技術に関する DVD など事前にイメージしておく。また、技術は、根拠を踏まえて、繰り返し技術練習を重ねることで修得可能となる。精神障害者の事例に関する事前課題を課すため、学習をして授業を受けること。また、授業の配布資料や小テストなどは、ポートフォリオとして整理すること。積極的に自己練習をすること。準備学習として、予習や復習に必要な時間は、全体で 30 時間である。</p>								
成績評価基準								
<p>筆記試験（70 点）、演習への取組み・精神看護に対する考え方についての課題レポート（30 点）など総合して評価する。課題レポートなどは、講義前後の予習・復習課題を提示する。提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>課題レポート等は、学習強化できるようにコメントをつけて評価をフィードバックし再提出とする。再提出後に、正答および解説を行う。演習での技術習得については、その都度教員からの指導を実施する。修得が不十分な技術に対しては、反復してトレーニングができるように授業を調整する。</p>								

教科書・参考書など		
(教科書) 武井麻子 他(著)「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学(1)」医学書院 2021 武井麻子 他(著)「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学(2)」医学書院 2021 (参考書) 萱間真美 他(著)「精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス」南江堂 2015		
授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	中島・原・黒岩	ユニット1 精神障害者とのコミュニケーション 1)精神障害者とのコミュニケーションや援助を通して、援助的人間関係を築く方法を学ぶ。 2) 精神的健康回復のためのコミュニケーション方法を学ぶ(グループワークを行い学習する)。
2	中島・原・黒岩	ユニット2 精神障害者(統合失調症患者)を対象とした看護過程 1)精神障害者の紙上事例を活用し、情報をゴードンの11の機能的健康パターン毎に整理する方法を学ぶ。 2)ゴードンの11の機能的健康パターン毎にアセスメントする方法を学ぶ。
3	中島・原・黒岩	3)アセスメント結果を踏まえて、ICFの関連図および病態関連図を描き、精神障害者の全体像を明らかにする方法を学ぶ。 4)精神障害者が健康障害を持ちながらも、最適な生活(well-being)を営める看護方針について学ぶ。 5)健康上の問題を明らかにして、優先度を考える方法について学ぶ。
4	中島・原・黒岩	6)精神障害者の地域における最適な生活(well-being)を目指した看護目標を設定し、目標達成に向けた科学的根拠に基づく看護計画立案方法を学ぶ。
5 6 7	中島・原・黒岩	7)看護計画に基づき、患者の状態を観察しながら看護を実施する方法(他職種連携を含む)を学ぶ。【模擬実習型シミュレーション(問題解決型演習)を行い学習する】 また、看護専門職者の責務及び態度としての以下のことを学ぶ。 (1)精神看護を提供するために必要な倫理観について考える。 (2)精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度について考える。 8)最適な生活(well-being)に向け、さらに精神看護に必要なセルフケア能力を高める支援、認知行動療法、法律や社会資源の活用方法、他職種との協調・協働方法などについて学ぶ。
8	中島・原・黒岩	8) 精神的健康に向けた看護の評価方法を学ぶ。
9	中島・原・黒岩	ユニット3 気分障害患者を対象とした看護実践 1)入院治療を受ける気分障害患者に対して、最適な生活(well-being)を目指し看護過程方法について学ぶ(ロールプレイを行い学習する)。
10	中島・原・黒岩	2)入院治療を受ける気分障害患者に対して、他職種連携方法を学ぶ。 3)気分障害患者の精神的健康に向けた看護の評価方法を学ぶ。
11 12 13	中島・原・黒岩	ユニット4 精神症状に応じた看護 1)精神症状の病態・治療から看護実践方法に結びつけて学ぶ(グループワークを行い学習する)。 2)精神症状を持つ対象の安全確保の方法を学ぶ。

14 15	中島・原・黒岩	ユニット5 精神的健康の保持・増進に向けた看護 1) 地域社会において、対象者に応じた最適な生活 (well-being) を目指す精神的健康支援方法を学ぶ。 2) 社会資源の活用方法について学ぶ。
16 17 18	中島・原・黒岩	3) 社会資源の活用方法を紙面事例から具体的に考える (グループワークを行い学習する)。
19 20 21 22 23	中島・原・黒岩	ユニット6 入院治療から地域支援 1) 継続した看護について紙面事例を活用し学ぶ。 情報収集・アセスメント・健康上の問題・看護目標・看護計画・実施・評価
24 25 26	中島・原・黒岩	2) 病院・学校・職場などあらゆる場における具体的連携方法について考える。
27 28 29	中島・原・黒岩	3) 精神障害者の健康状態の合わせた看護方法について、紙面事例を活用した演習から身に着ける (ロールプレイを行い学習する)。
30	中島・原・黒岩	4) 精神的健康の状態に応じた看護に関連する法律を学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031707	専門	必修	在宅看護論	講義	1	30	15	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3.4.5								
評価責任者及び担当教員 宮園真美								
評価責任者：宮園真美 担当教員：宮園真美 宮坂啓子 松尾里香 山中富								
授業の目的とねらい								
<p>1. 3年生の前期にあるこの科目では、地域在宅看護学概論で学習した地域、在宅で生活する療養者の様々な発達段階、健康レベルにある人々とその家族が生活の質を高めるために必要な、在宅看護の概念と療養者、活動、役割の特徴について理解する。</p> <p>2. 在宅で生活する療養者の健康保持増進のための在宅医療や看護支援のあり方を総合的に理解する。疾病や障がいを持ちながら、また加齢に伴う変化などを有する療養者が、自宅やそれに準じた環境で生活している状況を理解する。</p> <p>3. 保健・医療・福祉のあらゆる側面から、療養者及びその家族に対して生活の質の向上を目指し多職種と連携しながら、各療養者にサービスを提供している事を理解する。</p> <p>4. 地域医療・ケアシステムの中で個別的看護を展開するための能力を養う。</p> <p>5. 今まで看護学領域の授業で学んだ知識を基盤として、小児、母性、精神障がいを持ちながらも在宅で生活している療養者が望む場での人らしく健やかに療養生活を続けられるよう支援について考えることができる。</p> <p>6. ユニット毎の課題に対して、自分で読み解く力、重要なポイントをまとめる力、他者にわかりやすく伝える力を育成するために、一方向ではなく双方向的授業を取り入れる。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容) 病院における高齢者看護や訪問看護経験を活かし、地域療養する対象者および家族の最適な生活 (well-being) を目指した看護実践を指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識</p> <p>①地域療養を可能にする在宅看護過程の方法を説明できる。</p> <p>②様々な療養者と支える家族を取り巻く保健・医療・福祉について説明することができる。</p> <p>③「特定行為」を含めた看護技術方法を説明できる。</p> <p>④在宅看護における関係機関・関係職種との連携と調整・協同について現状と課題について説明することができる。</p> <p>⑤公民館などで活動している高齢者の生きがいや思いについて述べる事ができる。</p> <p>⑥在宅療養者を療養者とした看護管理・安全管理について説明することができる。</p> <p>2. 態度</p> <p>①地域在宅看護を展開するための倫理的態度を養う。</p> <p>3. 技術</p> <p>①地域在宅看護の役割について調べ、発表することができる。</p> <p>②地域在宅看護について、学んだことを、自分の言葉で説明することができる。</p> <p>③各テーマにおいて自分の考えを表現できる。</p>								
準備学習								
学生は、必須または推奨される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他学習活動に約60分/回を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。								
成績評価基準								
資料として配布する評価シートにもとづき、各回のレスポンスレポート評価を行い、授業態度・課題内容(20点)とする。筆記試験およびレポート(80点)によって総合100点で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。								
課題等に対するフィードバック								
課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。								
教科書・参考書など								
<p>(教科書)</p> <p>1) 秋山正子・小倉朗子他 著 「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院</p> <p>2) 村松静子 編著 「新体系 看護学全書 在宅看護論」 メヂカルフレンド社</p> <p>(参考書)</p> <p>1) 杉本正子・眞船拓子 編 「在宅看護論 実践をことばに 第5版」 NOUVELLE HIROKAWA</p> <p>2) 池上直己 訳 「MDS-HC2.0 在宅ケアアセスメントマニュアル(CD-ROM付)(新改訂)」 医学書院</p> <p>3) 山田正子 総監修 「映像で感じ、考える、これからの在宅看護論 (DVD版 全5巻)」 株式会社ビデオ・パック・ニッポン</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	宮園	ユニット1 地域在宅看護における看護の展開【情報収集】 1) 必要な情報を得る方法 2) 継続看護の中でのアセスメント
2	宮園	ユニット1 地域在宅看護における看護の展開【計画立案と評価】 (模擬事例を基に理解する) 1) 家族、社会との関わりを考慮した看護診断・看護問題の優先度 2) 支援目標、在宅看護計画立案の方法とその共有化の必要性
3	宮園	ユニット1 地域在宅看護における計画立案と評価 1) 生活の場で実践される看護がどのような成果をもたらすか、評価・フィードバック方法 2) 「特定行為」を含めた看護援助の実際
4	宮坂	ユニット2 地域在宅における家族看護 1) 在宅看護における家の役割 2) 家族のライフサイクル、家族の状況、介護者の負担感、
5	宮坂	ユニット3 在宅における意思決定と倫理的諸問題 1) 療養者のニーズ 2) 意思決定の権利とその責任 3) 在宅看護の倫理的問題とアドボカシー
6	宮坂	ユニット4 地域在宅看護と関連する関係機関、他職種連携、ケアマネジメント 1) 在宅看護の関係機関の働きと連携 3) 在宅看護におけるケアマネジメントの重要性
7	山中	ユニット5 訪問看護ステーションの実際 1) 訪問看護ステーションの概要、設置、流れと特徴、療養者、サービスの内容 2) 訪問看護ステーションの理念・規定・管理方法
8	山中	ユニット6 福岡県の地域特性や公民館を利用している高齢者の活動 1) 公民館などで活動している高齢者の生きがいや思いへの理解 2) 地域の特性について、学んだことを、グループワークを通して共有する
9	宮坂	ユニット7 訪問技術、コミュニケーション 1) 訪問時のマナーと家庭の特徴 2) 訪問看護における信頼関係の形成のための技術
10	松尾	ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際 (1) 1) 通所看護、レスパイトケア、母子を対象とした地域在宅看護 ①子育て世代包括ケアシステム推進のためのモデル事業への理解 ②医療的ケア児への 安全な在宅移行支援への理解
11	松尾	ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際 (2) 2) 精神、認知へ障害のある療養者への理解 ①精神障がいを持ちながら地域で生活する対象への看護の特徴 ②対象への日常生活援助
12	松尾	ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際 (3) 3) 難病疾患療養者 難病をはじめとする医療依存度の高い療養者への行政的な支援、サービス
13	山中	ユニット8 在宅療養者の理解と看護援助の実際 (4) 4) 在宅で多く提供される看護技術 褥瘡、経管栄養、胃ろう、膀胱留置カテーテル、在宅酸素療法、人工呼吸器、 中心静脈栄養の援助の実際
14	松尾	ユニット9 地域在宅看護における事故防止と安全管理 1) 在宅看護における医療・ケア事故、安全管理について 2) 在宅療養者の安全でその人らしい生活に向けた看護の方向性、在宅看護の重要性について
15	宮園	ユニット10 地域在宅看護における今後の課題 住み慣れた地域において生活する療養者が生きがいを持ちつつ、より良い (well-being) 生活を送るために必要な看護について考察し共有する

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031708	専門	必修	在宅看護論演習	演習	2	60	30	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3.4.5								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：宮園真美 担当教員：宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 寒水章納 松尾里香 山中富								
授業の目的とねらい								
<p>3年生の前期にあるこの科目では、在宅看護学概論、在宅看護論で学習した地域・在宅で生活する利用者とその家族への理解を深めるために、在宅看護の役割について演習を通して理解を深める。在宅看護の展開においては生活環境への視点、社会資源や制度のケアシステムと在宅ケアチームの協働の意義を考察する。</p> <p>在宅における看護過程の展開は、在宅で療養中の紙上事例を用いて、アセスメント、健康課題の明確化、援助計画の立案を行い、在宅での看護援助を適切に展開するための看護過程の基本的な考え方を修得する。</p> <p>疾病や障がいを持ちながら、在宅で生活する利用者の看護管理について理解できる。</p> <p>公民館活動に参加している、地域で生活する高齢者や通所施設を利用している人とのふれあいを通して、身体的、心理的、社会的な側面から在宅で生活している人を総合的に理解する。</p> <p>ユニット毎の課題に対して、自分で読み解く力、重要なポイントをまとめる力、他者にわかりやすく伝える力を育成するために、一方向ではなく双方向的授業を取り入れる。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容)</p> <p>地域における公衆衛生看護や訪問看護の経験を活かし、地域療養する対象者および家族の最適な生活 (well-being) を目指した看護実践を指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識</p> <p>①地域在宅看護に関する用語や社会資源や制度の活用について説明できる。</p> <p>2. 態度</p> <p>①在宅における紙上事例を用いて立案し、家族、地域、社会などの関連を考察し、在宅看護の特性を反映した看護過程が紙上で展開できる。</p> <p>②疾病や障がいを持つ在宅利用者のセルフケア（栄養、排泄、カテーテル管理など）や医療依存度の高い利用者の看護についてまとめ、実践することができる。</p> <p>③公民館活動に参加している地域住民の日常生活行動及びその環境について、学習やふれあいを通して知り、在宅で暮らす意義について考え、発表する事ができる。</p> <p>3. 技術</p> <p>地域在宅看護に関する用語や社会資源や制度については、徹底ワーク集として一冊にまとめ、在宅看護の理解を深め、在宅看護論実習および訪問看護論実習に活用する。</p>								
準備学習								
<p>学生は、必須または推奨される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他学習活動に約60分/回を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。</p>								
成績評価基準								
<p>授業態度・課題内容（20点）とレポート評価（80点）によって総合100点で評価する。レポートは毎回提出する。課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。</p>								
<p>課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。</p>								
教科書・在宅看護論（医学書院）、国民衛生動向								
<p>(教科書)</p> <p>1) 秋山正子・小倉朗子他 著 「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院</p> <p>2) 村松静子 編著 「新体系 看護学全書 在宅看護論」 メヂカルフレンド社</p> <p>(参考書)</p> <p>1) 池上直己 訳 「MDS-HC2.0 在宅ケアアセスメントマニュアル(CD-ROM付) (新改訂)」 医学書院</p> <p>2) 山田正子 総監修 「映像で感じ、考える、これからの在宅看護論 (DVD版 全5巻)」 株式会社ビデオ・パック・ニッポン</p> <p>3) 杉本正子・眞船拓子 編 「在宅看護論 実践をことばに 第5版」 NOUVELLE HIROKAWA</p> <p>4) 押川眞喜子 監修 「写真でわかる訪問看護」 インターメディカ</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						

1 2	宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 寒水章納 松尾里香 山中富	1. 在宅ケアシステムと構成要素 1) 地域在宅看護の実践を支える各職種との連携・協働について説明できる。 2) ケアマネジメントおよびケアマネジャーの役割を説明できる。 3) 医療施設から在宅に移行する際の継続看護、退院支援について説明できる。 4) 在宅療養者の口腔を起点とした全身の健康支援を支える在宅ケアシステムについて説明できる。
3 4		2. 訪問看護ステーションの管理・運営およびリスクマネジメント 1) 訪問看護ステーションの趣旨、運営、職員の役割を説明できる。 2) 感染症やインシデントに関する、家族への予防指導、看護師の予防対策について説明できる。 3) 発表を通して自分の理想とする在宅看護をプレゼンテーションし、他の学生の学びと共有する。
5 6		3. 在宅療養者と家族の住環境整備 1) 住環境が療養者の健康と生活に及ぼす影響について説明できる。 2) 対象のADLと社会資源の活用および住宅改修の方法について説明できる。 4. 在宅療養者と家族の安全な活動及び自立した生活 1) 身体運動機能低下による、転倒・骨折や寝たきりの発生過程と予防対策、基本動作およびADL獲得への援助について説明できる。 2) 他職種の活用および連携のあり方について説明できる。 3) 介護保険制度における福祉用具貸与・購入のおよび住宅改修の概要について説明できる。
7 8		5. 在宅療養者と家族の摂食状況 1) 家族形態と摂食状況の関係についてその特色を説明できる。 ・高齢者独居・老々介護家族・共稼ぎ所帯・シングルペアレント、貧困家庭など 2) 食生活のアセスメントと支援方法について説明できる。 3) 他職種との連携、資源の活用方法について説明できる。 4) 栄養と口腔ケアの重要性について説明できる。 6. 在宅における経管栄養法、中心静脈栄養法
9 10		7. 在宅療養者の保清支援 (1) 1) 在宅における入浴、清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア介助の実際を想定し、物品や環境の準備を説明できる。 2) 模擬患者へ清拭、部分浴、洗髪、口腔ケアの援助が実践できる。 3) 訪問歯科診療と看護の役割について説明できる。
11 12		8. 在宅療養者の排泄 (排尿・排便) を整える援助 1) 在宅での排泄に関する問題について考えることができる。 2) 高齢者における排泄に関する問題について考えることができる。 3) 排泄の自立に関連する要因、アセスメントと援助について説明できる。 4) 床上排泄を余儀なくされる対象への援助について説明できる。 5) 排泄ケアの援助を受ける療養者の心理的負担を述べることができる。 6) オムツの使用について、専門家よりデモンストレーションの講義を受けて、理解を深める。 7) 膀胱留置カテーテル・間欠導尿、人工肛門の適応と仕組み、看護目標について説明できる。 8) 在宅において起こりやすい異常やトラブルとその予防および対処方法、カテーテル管理に関する技術、療養者、家族への援助内容について説明できる。 9) 必要な物品の調達方法と処理方法について説明できる。
13 14	宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 寒水章納 松尾里香 山中富	9. 在宅療養者の安楽な呼吸を整える援助 (1) 1) 呼吸器障害に関連する要因、援助について説明できる。 2) 関連する他職種との連携のあり方について理解できる。 3) 在宅酸素療法の適応と仕組み、看護目標について説明できる。 4) 在宅において起こりやすい異常やトラブルとその対処方法、療養者・家族への援助内容について説明できる。 5) 酸素ボンベの取り扱いを実践できる。 6) 呼吸器障害時に必要な口腔ケアについて説明できる。 7) 人工呼吸器療法の適応と呼吸器の構造・機能および種類、看護内容について説明できる。 8) 在宅において起こりやすい異常やトラブルとその対処方法や療養者・家族への援助内容について説明できる 9) コミュニケーションの方法を説明できる。 10) 人工呼吸療法時に必要な口腔ケアについて説明できる。

15 16	宮園真美 宮坂啓子 町島希美 寒水章納 松尾里香 山中富	10. 在宅療養者のフィジカルアセスメント 1) 在宅におけるフィジカルアセスメント「問診」「視診」「触診」「打診」「聴診」原則と方法を説明し、模擬患者に実施できる。 2) 訪問看護に必要な測定、観察、症状アセスメントが模擬患者において実施できる
17 18		11. 公民館活動 近隣の公民館活動に参加し、地域住民の日常生活や健康行動について把握する。
19 20		12. 【看護過程演習】 視聴覚教材および実際に使用する記録用紙による情報収集、経時に変化する容態毎に看護展開を学習する。 2) 在宅における看取りの看護の実際を理解する
21 22		3) がん末期療養者によくみられる症状と緩和ケアのポイントを理解する。 4) がん末期療養者の疼痛管理について理解する。
23 24		5) がん療養者の対症療法、代替療法について理解する 6) がん末期療養者の家族支援とグリーフケアを理解する
25 26 27 28 29 30		事例を総合的にとらえ情報収集から計画立案を指定のファイルに記載し、最終的に全体発表する。 1) 提示された事例の療養者や家族について、必要な情報をもとに全体像を説明できる。 2) 必要な情報を収集し、アセスメント用紙に記載できる。 3) 全体像を関連図に示すことができる。 4) あらゆる側面から総合的にアセスメントし、看護問題を明確にできる。 5) がん末期療養者である対象の看護目標、看護計画の立案ができる。 6) 看護の評価の視点を理解し、記述できる。 7) 発表を通して、看護過程の展開と事例対象の在宅看護のポイントを理解する。 8) 既習の学習内容と総合的に理解できる。 今後の在宅医療に求められる体制づくりおよび自分の在宅看護観を説明できる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031756	専門	必修	在宅高齢者ケア	演習	1	15	8	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 13.4.5								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：宮坂啓子 担当教員：宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 松尾里香								
授業の目的とねらい								
<p>3年生の前期にあるこの科目では、既習の認知症高齢者への学習に基づき、認知症の進行に伴う行動変化や、認知症高齢者の日常生活・社会生活に適応するための生活環境の整え方を様々なケースを通して多方面から学び、認知症および高齢者の精神活動と看護の在り方について理解するとともに、認知症を持ちながら生活する人々の QOL の維持・向上を追求する基本的知識技術を習得する。</p> <p>実務経験を生かした教育内容) 在宅で療養している認知症高齢者への療養生活支援技術や診療介助技術、健康維持増進を目的とした生活指導、家族を含めた対象への理解、アセスメントおよび看護の展開に関して実務者の看護実践を通して教授する。</p>								
到達目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の疾患、重症度、BPSDのアセスメント方法が説明でき、実施できる ・認知症の治療と薬物治療について理解できる ・認知症高齢者の生活アセスメントができ、その判断をリスクマネジメント、自立した生活援助に結びつけた看護が説明できる ・幅広いニーズを有する認知症高齢者と家族の支援について、医療、保健、福祉の多方面の支援の必要性が説明できる ・医療現場において治療を要する複雑な問題を有する認知症高齢者に対するキュアとケアを統合した専門的で高度なケア実践を考えることができる 								
準備学習								
<p>事前に専門用語や略語について調べておく</p> <p>学生は、講義前にシラバスの予習内容ならびに行動目標を理解した上で、事前レポートを提出すること。</p> <p>講義後は、講義中に指定した資料を中心に、講義内容を復習すること。</p>								
成績評価基準								
<p>課題レポート（80点）、授業態度（ワークへの参加度など）・課題内容（20点）によって総合100点で評価する。レポートは毎回提出する。課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。</p>								
<p>課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。</p>								
教科書・								
<p>(教科書) 在宅看護論（医学書院），国民衛生動向</p> <p>(サブ参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十束支朗 著 認知症のすべて～あなたはわかっていますか～ 医学出版社トム・キットウッド（1997） ・認知症のパーソンセンタードケア 筒井書房Souren L. & Franssen E.（2003）. ・アルツハイマー病一患者の世界ー じほう ・クリスティーン・ボーデン（1998）私はだれになっていくの？アルツハイマー病者からみた世界クリエイツかもがわ 中島記恵子 他（2012）認知症高齢者の看護 医歯薬出版株式会社 								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	宮坂啓子	<p>認知症について必要な情報を得る方法や得た情報をどのように判断するか、そのポイントについて説明できる。また、認知症の症状、BPSD を誘発する要因、適切な対応方法を理解する。</p> <p>1) 認知症について必要な情報を得る方法や得た情報をどのように判断するか、そのポイントについて説明できる。</p> <p>2) 高齢者と認知症のそれぞれについて理解でき、結びつけることができる。</p>
2	宮坂啓子	<p>社会環境・資源（認知症に関わる制度・政策）の具体的ービス内容を理解する。認知症の人に関わる多職種連携について理解する。</p> <p>1) 新オレンジプラン、介護保険制度などの理解とその活用方法と関わる職種について説明できる。</p> <p>2) 認知症の人の生活支援を行うために必要な多職種チームの在り方や訪問看護の実践について説明できる。</p>
3	宮坂啓子	<p>ICF（国際生活機能分類）、生活機能障害という観点から認知症を理解し、ケアを考える事ができる。DVD 視聴を通して、認知症ケアの基本的な考え方について理解する。</p> <p>1) ICF を活用アセスメントの枠組みに沿って情報収集し認知症の人の全体像および問題点を列挙できる。</p> <p>2) 認知症の人（若年性認知症も含む）及び家族 への支援とその対象者 に関わる基本的態度を説明することができる。</p>
4	宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 松尾里香	<p>認知症の人の生活を知る。（ゲストスピーカー）</p> <p>1) 実際のケア現場からの話を聞き、知得を得て、認知症の人の現状について話を聞き、感想を記入する。</p> <p>2) 認知症の人の現状について、実際のケア現場からの話を聞き知得し認知症の人の看護の方向性について説明することができる。</p>
5	宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 松尾里香	<p>DVD「認知症の人の奥に気づくには？」のDVDを見て、認知症の人の思いや目や手で伝えるメッセージについて考えることができる。</p> <p>1) 認知症の人の帰宅願望について居場所探しについて理解し説明できる。</p> <p>2) 不穏、興奮、攻撃など不安や怒りの裏付けについて理解し、説明できる。</p>
6	宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 松尾里香	<p>施設や自宅で生活をする認知症高齢者とその家族の看護問題について事例を通して、介護困難・介護負担と家族支援、ケアマネジメントについて理解する。</p> <p>1) 家族、社会との関わりを考慮した看護診断・看護問題の優先度を説明できる。</p> <p>2) 支援目標、看護計画立案の方法とその共有化の必要性について説明できる。</p> <p>3) 事例の看護目標の設定、看護計画の立案ができる。</p> <p>4) 事例の看護の評価の視点を理解し、記述できる。</p>
7	宮園真美 宮坂啓子 町島希美絵 松尾里香	<p>事例を通して立案した看護計画を発表できる。</p> <p>1) グループごとに、看護の展開内容について発表を行う。</p> <p>2) 対象をどのように捉え、どのような看護が必要であるかプレゼンテーションできる。</p>
8	宮坂啓子 宮園真美	<p>認知症高齢者および家族への看護の現状と今後の課題について考察できる。</p> <p>現状の問題を把握でき、今後の認知症高齢者の課題について考える事ができる。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031757	専門	必修	看護研究方法論	講義	1	30	15	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 6・7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：飯野英親 担当教員：飯野英親、岡田賢司、荒川満枝、得能智武								
授業の目的とねらい								
<p>この科目では、看護研究の意義と研究に必要な基礎知識を学ぶために、研究の基礎知識、文献検索、4つの臨床看護研究について学び、看護研究について学修する。また、医師が頻回に利用する医療系論文データベース、医学知識データベース等についての理解を深める。合わせて「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」を理解し、対象者の権利擁護のための倫理的配慮についても学修する。</p> <p>本科目の学修成果は、主に筆記試験、課題レポートで確認する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究の目的とプロセス・成果発表の場について説明できる 2) エビデンスに基づく看護実践の必要性について説明することができる。 3) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（厚生労働省）」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」について、そのガイドライン策定までの背景と内容について説明することができる。 4) 各論文データベースを使った検索での注意点を説明できる。 5) 看護研究の中から記述統計的手法を用いた量的研究の方法、分析、結果の提示方法について説明できる。 6) 看護研究の中から分散・検定・多変量解析手法を用いた量的研究の方法、分析、結果の提示方法について例を挙げて説明できる。 7) 半構成的面接法、フォーカスグループインタビューを用いた看護研究の方法、分析、結果の提示方法について例を挙げて説明できる。 8) 看護研究の中から文献研究の目的、方法、分析等について説明できる。 <p>2. 態度形成（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 4年次の看護課題研究につながる看護研究を学ぶ積極的な学修態度を養う。 3) 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習する。 <p>3. スキル形成（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医学中央雑誌で日本語論文を検索しリストにできる。 2) PubMedで英語論文を検索しリストにできる。 3) CINAHLで英語論文を検索しリストにできる。 4) 看護課題研究に生かせるように、自身の関心があるキーワードに沿って文献検索を行う。 5) 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。 								
準備学習								
<p>課題を通して復習することになるので、与えられた課題は必ず実施して授業に出席すること。授業前にシラパスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で30時間とする。</p>								
成績評価基準								
<p>レポート（課題レポートを含む）（80点）、授業態度・発言・積極性等（20点）など総合して評価する。授業に対するコメントなど、提出物の期限が守れなかった場合は減点対象（-5点）とする。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>授業に対するコメントは返却し、今後の学習に生かすことができるよう解説を行う。</p>								
教科書・参考書など								
<p>教科書： 南 裕子編集 「看護における研究 第2版」日本看護協会出版会、2017</p>								

参考書：（参考書）

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（厚生労働省）」

「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」

「看護者の倫理綱領（日本看護協会）」

その他、演習を通して適宜、文献や資料を紹介・配布する。

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	飯野英親 岡田賢司	ユニット1 オリエンテーション 看護研究概論、看護研究の目的とプロセス・成果発表について学ぶ。 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」について理解する。
2	飯野英親 岡田賢司	ユニット2 文献検索① 医中誌、CiNii等の医療系の日本語論文データベースの概要を知る。日本語文献の検索法と注意点について理解する。
3	飯野英親 岡田賢司	ユニット2 文献検索② 外国語文献検索法と注意点について学ぶ。PubMed、CINAHLで英語論文を検索し、論文のダウンロード方法、管理方法について理解する。
4・5	荒川満枝 岡田賢司	ユニット3 量的研究の概要① 統計的手法を用いた量的研究の研究デザイン、方法、分析等について理解する。
6 7 8	荒川満枝 岡田賢司	ユニット3 量的研究の概要② 応用的統計的手法を用いた量的研究の研究デザイン、方法、分析等について理解する。
9・10	荒川満枝 岡田賢司	ユニット3 量的研究の概要③ 量的研究手法の看護系論文を用いて、研究デザイン、手法、結果の提示方法等について学ぶ。
11 12 13	得能智武 岡田賢司	ユニット4 実験研究の概要 看護系・医学系で使われる初歩的な実験研究の研究デザイン、方法、分析等について学び、実験研究方法について学ぶ。
14	飯野英親 岡田賢司	ユニット5 質的研究の概要 質的研究（半構成的面接法、フォーカスグループインタビュー）の研究デザイン、方法、分析等について学び、質的研究の概要について学ぶ。
15	飯野英親 岡田賢司	ユニット6 文献研究の概要と論文内容の整理 文献研究の目的、方法、分析等について学び、文献研究の概要について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN033709	専門	選択	公衆衛生看護活動論Ⅱ (組織・集団・地域支援方法)	演習	1	30	15	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1・2・3・4・5・7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：吉田大悟 担当教員：角森輝美・吉田大悟・寒水草納								
授業の目的とねらい								
<p>地域の健康問題や健康課題を把握するために、地域診断の概念や地域診断の過程と方法を学習する。また、地域の問題を組織的な解決方法を学ぶと共に、住民のニーズにあった健康施策や、地域の保健活動計画や評価について学習する。更に、地域組織活動の考え方や支援方法について、地域ケアシステムづくりの実務的な側面を学習する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断について、その目的・利便性・実践を導くための理論となるモデルについて理解し、説明することができる。</p> <p>2) 地区踏査のための準備として保健統計など既存の資料や日常的な保健活動内容と調査方法について理解し、説明することができる。</p> <p>3) 校区住民にインタビューをおこない、住民の日常の生活や生活環境、また、諸施設で働く人々の意見を聞くことにより社会的環境や社会情勢を理解し、説明することができる。</p> <p>4) 住民の生活から推測した健康問題について理解し、説明することができる。</p> <p>5) 地域ケアシステムにおける保健師の役割を説明し、説明することができる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 積極的にディスカッションや地区踏査に参加し、グループで自分の意見を述べることができる。</p> <p>2) グループワークで課題を達成するために自分に与えられた役割（資料作成、発表など）を果たすことができる。</p> <p>3. スキル形成</p> <p>1) 地区踏査用の地図、マニュアルを作成できる。</p> <p>2) インタビューガイドを作成できる。</p> <p>3) 関係機関への連絡・調整ができる。</p> <p>4) 対象校区の地区踏査を実践し、報告会で発表することができる。</p> <p>5) 妊産婦や高齢者の疑似体験を通して健康上の問題を推測し、レポートにまとめることができる。</p> <p>1) 地域診断で得られた情報を基に、住民の健康課題を考え地域の保健計画について立案できる。</p> <p>2) 住民の生活、健康問題を理解し、その解決策について推察できる。</p> <p>3) 住民と関係機関を繋ぐことができる。</p>								
準備学習								
<p>講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目に目を通しておくこと。学生は課せられる課題や、その他学習活動に約15時間を費やすこと。</p>								
成績評価基準								
筆記試験（40%）および授業態度と演習レポート（60%）として総合100点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
演習レポート等は、評価後に返却し、解説をおこなう。								
教科書・参考書など								
<p>(教科書)</p> <p>上野昌江・和泉京子編集 公衆衛生看護学 第2版 中央法規出版 2018年 中村裕美子他著 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 2018年</p> <p>(参考書)</p> <p>エリザベス・アンダーソン他編 コミュニティアズパートナー 第2版 医学書院 2007年 ローレンス・グリーン他著 ヘルスプロモーション 医学書院 2002年 金川克子他著 地域看護診断 第2版 東京大学出版会 2011年 井伊久美子他著 新版 保健師業務要覧 第3版 日本看護協会出版会 2013年 佐伯和子著 地域看護アセスメントガイド 第2版 医歯薬出版株式会社 2018年 水島春潮編集 地域診断のすすめ方：根拠に基づく健康政策の基盤 医学書院 2006年</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	吉田	ユニット1 公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断 その目的・利便性・実践を導くための理論となるモデル
2	角森	ユニット2 地域診断方法の基本 1) 地域診断のための情報収集をおこなうための対象地区の地区踏査の方法 地域診断の意義、目的、方法（地区踏査）
3	寒水	2) 地域診断・地区踏査のための準備 保健統計など既存の資料や日常的な保健活動内容と調査方法 地域診断のためのインタビューガイドの必要性と作成方法
4	吉田	3) 地区踏査に必要なコミュニティアズパートナーモデル 地域住民の問題を抽出する方法 モデルを活用して収集した情報を整理できる
5	吉田	ユニット3 地域診断のすすめ方 1. 準備 1) 地区踏査に必要な事前準備の内容 2) 地区踏査用の地図作成、マニュアル作成
6	角森・吉田・寒水	ユニット3 地域診断のすすめ方 地区踏査の実践① 3) 対象校区内の地区踏査の実践方法 4) 疑似体験を通して対象校区の健康問題を把握する
7	角森・吉田・寒水	ユニット3 地域診断のすすめ方地区踏査の実践② 3-2) 対象校区内の地区踏査の実践方法 4-2) 疑似体験を通して対象校区の健康問題を把握する
8	角森・吉田・寒水	ユニット3 地域診断のすすめ方地区踏査の実践③ 5) 校区内のリスク管理に必要な環境 6) 校区に住む住民の生活および生活環境 7) 住民の生活から推測した健康問題について理解できる
9	角森・吉田・寒水	ユニット4 地域診断結果の整理 校区内のリスク管理に必要な環境について理解する 校区に住む住民の生活および生活環境について説明できる
10		住民の生活から推測した健康問題について理解できる インタビュー準備
11	角森・吉田・寒水	ユニット5 校区住民へのインタビュー実施① 1) 住民の日常の生活や生活環境、また、諸施設で働く人々の意見を聞く 2) 社会的環境や社会情勢を把握する 3) 住民の思いを聞く（活動論Ⅰの展開と関連）
12	角森・吉田・寒水	ユニット5 校区住民へのインタビュー実施② 1) 住民の日常の生活や生活環境、また、諸施設で働く人々の意見を聞く 2) 社会的環境や社会情勢を把握する 3) 住民の思いを聞く（活動論Ⅰの展開と関連）
13	角森・吉田・寒水	ユニット5 校区住民へのインタビュー実施③ 1) 住民の日常の生活や生活環境、また、諸施設で働く人々の意見を聞く 2) 社会的環境や社会情勢を把握する 3) 住民の思いを聞く（活動論Ⅰの展開と関連）

14	角森・吉田・寒水	ユニット6 地域診断の計画実施および結果報告 地域診断から保健活動計画策定までの全プロセスについて発表
15	角森 吉田 寒水	ユニット7 保健活動計画を実施する中で必要な地域ケアシステムの運営 住民と関係機関をつなぐ保健師の役割の理解

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN132825	専門	選択	公衆衛生看護活動論Ⅲ (対象別公衆衛生看護活動論)	講義	1	30	15	3年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1 2 3 4 5								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：吉田大悟 担当教員：角森輝美 吉田大悟 寒水草納								
授業の目的とねらい								
地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団および組織への継続的支援と協働・組織活動とその評価を行うために、発段階、健康課題に応じた個人・家族・集団および組織の生活と健康状態の評価について学ぶ。また、人々が主体的に課題を解決できるように地域の社会資源を活用した支援活動について学習する。								
到達目標								
1. 全体像の理解 知識 1) 公衆衛生看護の対象別看護活動の概念について理解し、説明することができる。 2) 公衆衛生看護対象別活動について理解し、説明することができる。 3) 対象別公衆衛生看護活動に関する法令の概要を理解し、説明することができる。 2. 態度形成 態度 1) 積極的にグループのディスカッションへ参加し、自分の意見を述べるすることができる。 2) グループワークにおいて、課題を達成するために自分に与えられた役割（資料作成、発表など）を果たすことができる。 3. スキル形成 公衆衛生看護活動対象別の活動方法と特徴についてレポートによる発表を行うことができる。								
準備学習								
講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。 学生は課せられる課題や、その他学習活動に15時間を費やすこと。 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。								
成績評価基準								
筆記試験（80%）、授業態度・課題レポート内容（20%）とし、総合100点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
課題は評価後に返却し解説を行う。								
教科書・参考書など								
(教科書) 上野昌江・和泉京子編集 「公衆衛生看護学」 第2版 中央法規 水田祥代・窪田恵子 監修 「看護で教える口腔ケア」 大道学館出版部 *中村裕美子・奥山則子他 著 「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」 医学書院 *中谷芳美・山口忍他 著 「標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動」 医学書院 *一般社団法人日本共生社会推進協会 「これからの「共生社会」を考える」 福村出版 *は保健師コースのみ使用 (参考書) 井伊久美子・荒木田美香子他 編 「新版 保健師業務要覧 第3版」 日本看護協会出版会厚生統計協会編 「国民衛生の動向」 厚生統計協会 神馬征峰 著者代表 「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生」 医学書院								
授業内容								
1	角森	ユニット1 母子保健 1) 母子保健の動向 ・「健やか親子21」を基盤とした保健活動 ・母子の健康的な生活を支援する地域の仕組みづくり 2) 乳幼児各期の健康問題や保健指導 ・健康上のハイリスクの母子に対する保健活動の重要性						
2	吉田	ユニット2 成人保健 1) 成人保健の歴史的変遷と動向 2) 健康増進法を基盤とした「健康日本21」の保健活動						

3	吉田	ユニット2 成人保健 3)住民参加型のアプローチと保健行動支援
4	角森	ユニット3 高齢者への保健活動 1)高齢者保健活動、介護保険および保健福祉計画との関連性 2)地域ケアの充実と認知症および虐待の問題について
5	晴佐久	ユニット4 歯科保健活動の動向 1)他職種との協調・協働の重要性
6	晴佐久	ユニット4 歯科保健活動の動向 2)歯科保健活動の方法について学ぶ
7	吉田	ユニット8 感染症に対する保健活動 1)法的根拠 2)感染症の要因と予防:感染症発生時の疫学調査および感染拡大防止のための保健活動
8	吉田	ユニット8 感染症に対する保健活動 3)感染者およびその家族に対する保健指導の方法
9	角森	ユニット5 障害者総合支援法 自立支援システムおよび障害者への支援の視点
10	角森	ユニット6 難病対策の保健活動 1)療養上の支援から地域の保健・医療・福祉・当事者・地域住民の協働と連携 2)難病の患者を抱える家族が共に暮らしていけるコミュニティ
11	角森	ユニット7 精神保健活動 1)ノーマライゼーションの理念 2)精神障害者とその家族に対する地域の多機関との連携と就労支援にむけた保健活動
12	角森	ユニット7 精神保健活動 3)精神障害者の生活と保健指導
13	角森 吉田 寒水	ユニット9 乳幼児の保健指導の方法
14	角森 吉田 寒水	ユニット10 精神障害者に対する支援とその家族に対する支援の方法
15	角森 吉田 寒水	ユニット11 特定疾患を持つ患者とその家族に対する支援方法

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN121710	専門	必修	急性・回復期看護学実習	実習	3	135	-	3年次後期

関連するディプロマ・ポリシー NO. 1. 2. 3. 4. 6. 7

評価責任者及び担当教員

評価責任者：内田荘平 担当教員：内田荘平、末永陽子、秋永和之

授業の目的とねらい

成人看護学、高齢者看護学、急性期・クリティカル看護論、周術期・回復期看護論、慢性期看護論、緩和ケア看護論を基盤とし、健康障害や機能障害を持ちながら生活する成人期の対象者を全人的に理解し、対象者およびその家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための基本的な能力を身につける。

各期の対象者の形態的・機能的変化をふまえ、行動変化の特性を理解する。対象者のデータを専門的に解釈し、看護過程を実践する。

急性期においては、生命力の消耗を最小限にして、生命維持・回復を促すための援助を学ぶ。回復期においては、社会復帰を促し、対象者とその家族にとってより良いwell-beingな状態を考慮した支援方法を学ぶ。また、看護倫理に基づき、保健医療チームの一員として、急性期および回復期看護機能と役割を理解する。その中で、周手術期の治療規制や生命維持・回復を促す口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。

この科目は、事前学習を実施する。事前学習を臨地実習にて活用する。

〈実務経験を生かした教育内容〉

大学付属病院や急性期病院、慢性期病院における臨床看護実践経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の実践を指導する。

到達目標

1. 知識

- 1) 対象者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から理解できる。
- 2) 対象者の発達課題と疾患の関連について説明できる。
- 3) 主観的および客観的な情報を系統的に収集し、アセスメントすることができる。
- 4) 対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、関連図をもとに看護問題を明確にすることができる。
- 5) 抽出された看護問題に対して個別性に応じたwell-beingを目指した看護目標が設定できる。
- 6) 看護目標を達成するための看護計画を立案することができる。
- 7) 実践した看護を記録し、評価・追加修正することができる。
- 8) 実践した看護を要約し、継続看護を考えることができる。
- 9) チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携について説明できる。
- 10) 看護ケアを提供するための看護師の役割について述べられる。

2. 態度

- 1) 対象者の尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。
- 2) 対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。
- 3) グループダイナミクスを発揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。
- 4) 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。
- 5) 実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。
- 6) 実習における自己の看護観を述べることができる。

3. 技術

- 1) 対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。
- 2) 看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。
- 3) 対象のwell-beingを考慮し、必要に応じた看護を実施することができる。
- 4) 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。

準備学習

1年後期に学んだ病態疾病論・成人看護学概論、2年前期に学んだ高齢者看護学概論、急性期・クリティカル看護論、慢性期看護論、緩和ケア看護論、高齢者看護論、成人・高齢者看護論演習Ⅰ・Ⅱ、の学習内容を復習しておく。健康支援看護論の看護過程を振り返る。事前学習課題を各病棟の特徴を基に疾患、治療、看護等を学習する。また紙面事例をもとに関連図を記載する。予習、復習に必要な時間は全体で30時間である。

事前学習課題は、福岡学園（福岡看護大学）e-Learningシステム内に提示している「実習資料」を活用する。

<https://moodle.student.fdcnet.ac.jp/course/index.php?categoryid=3>

成績評価基準		
<p>実習記録、実践内容などによって総合的に評価する。自己評価、臨地実習指導者の評価をふまえ、担当教員で協議して評価を行う。</p>		
課題等に対するフィードバック		
<p>看護過程については、個別指導、必要時面接を行う、事例についてはカンファレンス等で、意見交換を行い振り返る。</p>		
教科書・参考書など		
<p>看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア リンダ J カルベ ニート著「看護診断ハンドブック」第3版 医学書院 林直子・佐藤まゆみ 著「看護学テキスト 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護 改訂第3版」南江堂 林直子・佐藤まゆみ 著「看護学テキスト 成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 改訂第3版」 矢永勝彦・小路美喜子 編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」医学書院 浅野浩一郎・梅村美代志他 著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器」医学書院 松田明子・永田博司他 著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器」医学書院 織田弘美・加藤光實他 著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器」医学書院 大東貴志・神尾弘美他 著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器」医学書院 渋谷絹子・天笠光雄他 著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15]歯・口腔」医学書院 その他適宜紹介 (参考書) 適宜指示する。</p>		
授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	内田荘平 末永陽子 秋永之和	<p>ユニット1 健康問題をもつ成人期および老年期の対象者および家族の特徴を理解し、援助的関係を構築できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。 対象者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から理解できる。 対象者の発達課題と疾患の関連について説明できる。 対象者の尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。 対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。
2	内田荘平 末永陽子 秋永之和	<p>ユニット2 健康問題をもつ成人期および老年期の対象者の問題を明確にし、看護の実践ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主観的および客観的な情報を系統的に収集し、アセスメントすることができる。 対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、関連図をもとに看護問題を明確にすることができる。 抽出された看護問題に対して個別性に応じた well-being を目指した看護目標が設定できる。 看護目標を達成するための看護計画を立案することができる。 看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。 対象の well-being を考慮し、必要に応じた看護を実施することができる。 実践した看護を記録し、評価・追加修正することができる。 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。 実践した看護を要約し、継続看護を考えることができる。
3	内田荘平 末永陽子 秋永之和	<p>ユニット3 成人期および老年期の対象者および家族に対する健康支援のために多職種と協調・協働ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。 チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携について説明できる。 看護ケアを提供するための看護師の役割について述べられる。 グループダイナミクスを発揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。
4	内田荘平 末永陽子 秋永之和	<p>ユニット4 実習を振り返り、自己の学びと課題を明確にすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。 実習における自己の看護観を述べるることができる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031667	専門	必修	慢性期・終末期看護学実習	実習	3	135	-	3年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1. 2. 3. 4. 6. 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：岩本利恵 担当教員：岩本利恵、山元万里子								
授業の目的とねらい								
<p>慢性期・終末期にある対象者および家族を全人的に理解し、疾病や障害とともに well-being に生きることを支援する看護について修得することを目的とする。セルフケア能力、自己概念、自尊心の低下のある対象者および家族が、セルフマネジメントできるような看護実践方法と教育指導方法を修得する。</p> <p>終末期の対象者およびの心理プロセス、死の受容過程を理解し、well-being な最期の時を支える看護を学ぶ。</p> <p>実習全体を通して、医療チーム、多職種連携を学び、チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。</p> <p>この科目は、事前学習を実施する。事前学習を臨地実習にて活用する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>公立病院や大学付属病院における成人慢性期・終末期看護の経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の実践を指導する。セルフマネジメント、セルフケアの自立のため患者教育、指導についても教育する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から理解できる。 2) 対象者の発達課題と疾患の関連について説明できる。 3) 主観的および客観的な情報を系統的に収集し、アセスメントすることができる。 4) 対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、関連図をもとに看護問題を明確にすることができる。 5) 抽出された看護問題に対して個別性に応じた well-being を目指した看護目標が設定できる。 6) 看護目標を達成するための看護計画を立案することができる。 7) 実践した看護を記録し、評価・追加修正することができる。 8) 実践した看護を要約し、継続看護を考えることができる。 9) チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携について説明できる。 10) 看護ケアを提供するための看護師の役割について述べられる。 <p>2. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。 2) 対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。 3) グループダイナミクスを発揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。 4) 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。 5) 実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。 6) 実習における自己の看護観を述べることができる。 <p>3. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。 2) 看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。 3) 対象の well-being を考慮し、必要に応じた看護を実施することができる。 4) 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。 								
準備学習								
1 年後期に学んだ病態疾病論・成人看護学概論、2 年前期に学んだ慢性期・終末期看護論 I、慢性期・終末期看護論 II 健康回復支援論演習の学習内容を復習しておく。健康回復支援論演習の看護過程を振り返る。事前学習課題を各病棟の特徴を基に疾患、治療、看護等を学習する。また紙面事例をもとに関連図を記載する。予習、復習に必要な時間は全体で 30 時間である。								
成績評価基準								
実習記録、実践内容などによって総合的に評価する。自己評価、臨地実習指導者の評価をふまえ、担当教員で協議して評価を行う。								
課題等に対するフィードバック								
実習指導については、個別指導、必要時面接を行い、事例についてはカンファレンス等で、意見交換を行い振り返る								

教科書・参考書など

(教科書)

小松浩子・井上智子他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論」 医学書院
 浅野浩一郎・梅村美代志他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器」 医学書院
 吉田俊子・宮地鑑他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器」 医学書院
 飯野京子・木崎昌弘他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器」 医学書院
 松田明子・永田博司他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器」 医学書院
 黒江ゆり子・高澤和永他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝」 医学書院
 井手隆文・竹村信彦他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経」 医学書院
 大東貴志・神尾弘美他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器」 医学書院
 渋谷絹子・天笠光雄他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15]歯・口腔」 医学書院

(参考書)

適宜指示する。

授業内容

回	担当教員	授業内容
	岩本、山元	ユニット1 健康問題をもつ成人期および老年期の対象者および家族の特徴を理解し、援助的関係を構築できる。 1) 対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。 2) 対象者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から理解できる。 3) 対象者の発達課題と疾患の関連について説明できる。 4) 対象者の尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。 5) 対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。
	岩本、山元	ユニット2 健康問題をもつ成人期および老年期の対象者の問題を明確にし、看護の実践ができる。 1) 主観的および客観的な情報を系統的に収集し、アセスメントすることができる。 2) 対象者の疾病、検査・治療および生活像を理解し、関連図をもとに看護問題を明確にすることができる。 3) 抽出された看護問題に対して個別性に応じた well-being を目指した看護目標を設定できる。 4) 看護目標を達成するための看護計画を立案することができる。 5) 看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。 6) 対象の well-being を考慮し、必要に応じた看護を実施することができる。 7) 実践した看護を記録し、評価・追加修正することができる。 8) 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。 9) 実践した看護を要約し、継続看護を考えることができる。
	岩本、山元	ユニット3 成人期および老年期の対象者および家族に対する健康支援のために多職種と協調・協働ができる。 1) 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。 2) チーム医療の中で相互の尊重・連携・協働を理解し、多職種連携について説明できる。 3) 看護ケアを提供するための看護師の役割について述べられる。 4) グループダイナミクスを発揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。
	岩本、山元	ユニット4 実習を振り返り、自己の学びと課題を明確にすることができる。 1) 実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。 2) 実習における自己の看護観を述べるることができる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031668	専門	必修	母性看護学実習	実習	2	90	-	3年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1、2、3、4								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者： 藤岡奈美 担当教員：藤岡奈美 中西真美子								
授業の目的とねらい								
<p>本科目では、ウェルネスの視点から看護を考え、マタニティサイクルにある女性に対し、正常な妊娠・分娩・産褥に向けた看護過程の展開を修得する。妊婦・産婦・褥婦及び新生児を受け持ち、女性のマタニティサイクルにおける生理的・心理社会的変化や新生児を理解し、看護ケアを提供する。学習の目標は、マタニティサイクルの状況で変わる母子の Well-being（最適な生活）を目指した看護について理解する。さらに、マタニティサイクルにある女性の口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>本科目の担当教員は、母性看護学分野において助産師としての職務経験等を有しており実務経験を活かした教育を実践する。</p>								
到達目標								
<p>1-1) 妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的な経過が説明できる。</p> <p>2) 妊婦、産婦、褥婦の心理的变化が説明できる</p> <p>3) 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある母子と家族の日常生活の変化が説明できる。</p> <p>4) 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の全体像が説明できる。</p> <p>5) 健康から逸脱した児・母親および家族の特性をふまえて援助の実際について考察できる。</p> <p>2-1) 対象の健康状態に影響を及ぼすリスク因子が判断できる。</p> <p>2) 対象の経過が正常か正常から逸脱しているかの判断ができる。</p> <p>3) 対象の妊娠・出産・育児に対する反応・行動が健康的か否か判断できる。</p> <p>4) 対象の健康を妨げる日常生活行動が判断できる。</p> <p>5) 妊娠・出産・育児に対する母子の健康の保持・強化のためのウェルネスのニーズをリストアップできる。</p> <p>6) 母子の健康上の問題をリストアップできる。</p> <p>7) 対象のもつセルフケアレベルが判断できる。</p> <p>8) リストアップしたニーズや健康上の問題の解決に向けて具体的な援助計画が立案できる。</p> <p>9) 立案した援助計画をもとに援助が実践できる。</p> <p>10) 実践した看護の評価ができる。</p> <p>3-1) 母子の健康をサポートするシステムやネットワーク機関の活動を理解し、対象が十分に活用できるような援助が考えられる。</p> <p>2) 母子の健全な育成にむけて母親・家族・地域社会が協調していくことの必要性を認識し、他領域の専門職者との連携と協働について考えられる。</p> <p>4-1) 母子相互作用・父子相互作用を通して成立する親子関係を理解し、よりよい関係が形成されるための援助が考えられる。</p> <p>2) こどもの誕生がもたらす親子関係・家族関係の再構成について考えることができる。</p> <p>3) 生命の尊厳について考えを深めることができる。</p> <p>5-1) 母性看護観について考えを表現することができる。</p>								
準備学習								
<p>1) 事前学習：母性看護論で展開した事例について、正常値を調べ振り返り学習をしておく。夏休み課題として課した帝王切開術前、術後および分娩期の看護計画を立案する。</p> <p>2) 実習要項をよく読み、正常・異常編の紙上事例看護過程展開を振り返る。教員に提出し、追加・修正する。</p> <p>3) 母性看護技術は、自己練習する。その後、教員の確認を得る。</p>								
成績評価基準								
<p>4/5 以上の出席を持って評価対象とする。</p> <p>実習要項に記載する評価表に沿って評価する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>対象者への看護を、教員・指導者からの助言やカンファレンスを通して、適宜振り返り、学びを深める。実習に関する記録物及び課題レポート等は、その都度解説・指導する。</p>								
教科書・参考書など								
<p>森 恵美ほか著 「系統看護学講座」 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①医学書院 2015</p> <p>森 恵美ほか著 「系統看護学講座」 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②医学書院 2015</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	藤岡奈美 中西真美子	1) 2週間の実習期間を通して産婦人科病棟・産婦人科外来・NICU/GCUなどで対象者へ看護実践を行う。 2) 産婦人科病棟においては、産褥期・新生児期にある母子を受け持ち、看護過程を展開する。展開した看護過程に基づき看護の実際および保健指導について学ぶ。 3) 産婦人科外来実習では、妊娠期の看護の実際と保健指導について学ぶ。 (詳細については実習要項参照)
2		看護過程の展開 妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程 情報収集・整理
3		看護過程の展開 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護過程 アセスメント・関連図作成
4		看護過程の展開 妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程 看護計画立案・保健指導案作成
5		看護過程の展開 妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程 看護計画の実施・保健指導案の実施
6		産科外来実習 妊婦健診・産後健診・新生児1か月健診における看護援助方法を見学し、母子の継続看護と多職者との地域連携を理解する。
7		産科外来実習 妊娠期・産褥期・新生児期の保健指導・母親教室を見学し、対象者が適切なセルフケアを行うための保健指導の重要性と社会資源の活用を理解する。
8		産科外来実習 妊娠期・産褥期・新生児期の診療処置・検査を見学し、正常・異常の各期の経過を理解する ① レオポルド触診法 ② NST装着・所見 ③ 諸計測(体重・血圧・腹囲・子宮底長) ④ 乳房の観察・乳房マッサージ ⑤ 子宮底の触診(子宮底の高さ、硬度) ⑥ 新生児計測(体重増加・身長) ⑦ 健康診査や内診の介助
9		学内実習:文献学習 産科外来実習での学びから地域での退院後の産褥ケア、多職種連携について学びの整理、自己の課題を明らかにする。
10		NICU見学:看護実践の見学 最終カンファレンス(課題解決型カンファレンス)に参加し、実習の学びと今後の課題を企画・開催する。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講時期
DN131670	専門	必修	小児看護学実習	実習	2	90	-	3年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1・2・3・4・5・6・7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：飯野英親 担当教員：飯野英親 青野広子								
授業の目的とねらい								
<p>小児看護の概念や理論をふまえ、成長・発達過程にある小児および家族との関わりを通して対象理解を深め、個別的看護を実践する過程における技法を修得する。また、臨地実習体験を通して倫理的視点を養うとともに、現代の小児と家族が抱える課題を考え、今後の小児看護の役割と子どもの権利を守る考え方を習得する。</p> <p>実習前にシラバスの学習目標、並びに、行動目標を理解したうえで、予習内容を学習し、実習における看護実践に活用する。小児保健や保育活動に関連する書籍での学習が必要となる。医療施設での実習は、病院の小児内科系病棟または小児外科系病棟において、看護計画を立案、実践し、看護過程を展開する。小児看護学概論での成長発達、健常児の生活、小児保健に関する学修と連動させて、保育園での実習は健康な子どもの生活や成長・発達段階について理解し、必要な支援を一部保育士とともに実践する。実習カンファレンスでは、ディスカッションにより自己の学習を深める。医療施設、保育園ともに、地域とのつながりを意識し、子育て支援や退院支援等についても理解を深める。この科目は、事前学習を実施する。事前学習を臨地実習にて活用する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>大学附属病院での小児臨床看護経験をいかし、子どもの療養生活支援と診療介助技術に関する知識・技術を、子どもの発達に応じて、臨床で経験した事例を基に教授する。また、家族・親族・学校との対応等、医療者間の連携に関しても実務で経験した事例を基に教授する。保育園実習に関しても、小児外来での実務経験をいかし、健康な子どもが外来受診する時のフィジカルアセスメント、心理状況のアセスメント、発達段階に応じたインフォームド・アセントなどを教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育園の構造・設備・日課について理解できる。 2) 保育園での保育活動を通して、子どもの成長発達を促す関わりが理解できる。 3) 実習病院・病棟の構造、設備、日勤業務について理解できる。 4) 健康障害を持つ小児とその家族のヘルスケアニーズについて総合的に理解できる。 5) 健康障害を持つ小児とその家族の看護上の問題に対し、問題解決プロセスを踏まえた解決方法を理解できる。 6) 健康障害を持つ小児とその家族の成長発達段階、健康レベルに応じて個別に行われる看護援助の実践能力が修得できる。 7) 小児看護の専門職者としての態度が修得できる。 8) 子どもの発達段階に応じた口腔機能を維持する習慣に対してアセスメント・介入できる技能が修得できる。 9) 子どもの well-being と親の well-being について考える能力が修得できる。 <p>2. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの尊厳および人権の意味を理解し、意思を尊重することができる。 2) 対象者および家族の倫理的配慮、個人情報保護、プライバシーの保護ができる。 3) グループダイナミクスを発揮し、対象者および家族の理解を深めることができる。 4) 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。 5) 実践した日々の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。 6) 子どもと家族の看護に関する自己の看護観を述べることができる。 <p>3. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者および家族と援助的コミュニケーションをとることができる。 2) 看護計画に基づいた看護を安全・安楽に実施できる。 3) 対象の well-being を考慮し、必要に応じた看護を実施することができる。 4) 対象者および家族のセルフケア能力を高めるための教育的な関りができる。 								
準備学習								
<p>準備として必要な内容は実習病院毎に異なるので、オリエンテーション時に指示する。疾患や臨床検査、子どもの成長発達、安全管理、輸液管理などの予習が必要。</p> <p>予習、復習に必要な時間は全体で20時間である。</p>								
成績評価基準								
<p>実習記録、実践内容などによって総合的に評価する。自己評価、臨地実習指導者の評価をふまえ、担当教員で協議して評価を行う。</p>								

課題等に対するフィードバック		
看護過程については、個別指導、必要時面接を行う、事例についてはカンファレンス等で、意見交換を行い振り返る。		
教科書・参考書など		
<p>(教科書)</p> <p>奈良間美保・丸光恵他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院</p> <p>奈良間美保・丸光恵他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」 医学書院</p> <p>(参考書)</p> <p>中野綾美他 著 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学 (1) 小児の発達と看護」 メディカ出版</p> <p>中野綾美他 著 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学 (2) 小児看護技術」 メディカ出版</p> <p>中村友彦他 著 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学 (3) 小児の疾患と看護」 メディカ出版</p> <p>その他、適宜指示する。</p>		
授業内容		
回	担当教員	授業内容
	飯野英親 青野広子	<p>ユニット1 保育園の構造・設備・日課（生活の流れ）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の特徴 ・入園児の特徴 ・受け持つ園児（クラス）の特徴 ・子どもが保育園に通うことで生じる影響
	飯野英親 青野広子	<p>ユニット2 保育園での保育活動を通した子どもの成長発達を促す関わり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の活動（子どもへの指導）を見学し、保育活動の実際について説明することができる。 ・保育士とともに保育活動に参加し、子どもに応じた日常生活援助を実施することができる。 ・実施した日常生活援助を踏まえた保育体験のエピソードを記録用紙に記し、子どもの最適な生活（well-being）について検討することができる。 ・健康な子どもの成長と発達段階に応じた日常生活行動、理解力、社会性等を説明できる。 ・学内日のカンファレンスにおいて、保育園での保育活動を通して、子どもと家族の最適な生活（well-being）について検討することができる。 ・最終カンファレンスにおいて、自己の学びの振り返りと他者の学びの共有を行うことができる。 ・自身の保育活動を評価し、子どもとの関わりに関する自己課題を設定することができる。
	飯野英親 青野広子	<p>ユニット3 実習病院・病棟の構造、設備、日勤業務の理解</p> <p>実習病院、病棟の概要について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病院の特徴 ・実習病棟の特徴 ・病棟入院患児の疾患 ・子どもが入院することによって生じる影響
	飯野英親 青野広子	<p>ユニット4 小児科病棟における看護過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴードンの11の機能的健康パターンに沿って、子どもと家族に関する情報を収集する。 ・入院や疾病が子どもと家族に与える影響を、身体的・心理的・社会的側面に沿って情報収集を行い、アセスメントすることができる。 ・受持っている子どもの発達段階や能力、個別性について述べるすることができる。 ・疾病の経過と病状治療や検査結果をまとめ、アセスメントすることができる。 ・収集した情報を整理・統合して、子どもと家族の全体像を描くことができる。 ・アセスメントの結果から、看護上の問題を抽出することができる。 ・看護問題の優先順位を整理し、計画を立案することができる。 ・小児の成長発達段階に合わせた遊びや検温等を通してコミュニケーションを図り、関係性を発展させていくことができる。 ・子どもや家族との信頼関係を深めることができるような行動を考えながら実践することができる。 ・看護計画は日々の行動計画用紙に書き込むことができる。 ・ケアを実践する場合は、事前に実習指導者に内容を報告・確認することができる。 ・子どもの個別性に応じ、安全・安楽に考慮しながら援助することができる。 ・看護ケアによる子どもへの効果・反応を確認することができる。 ・実践した援助内容について、実習指導者・担当看護師・教員などと振り返り、その後の看護実践に活かすことができる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・目標に照らし合わせて自己評価を行い、看護計画・看護目標の修正を行うことができる。 ・観察・実施したすべてのケアについての報告は、端的に実習指導者、または担当看護師へ、時間を空けずに報告することができる。 ・患児・家族に挨拶し、倫理的な配慮をしながら学習させてもらうことを伝えることができる。 ・あらゆる臨床場面で、子どもの自尊心を尊重した関わりをすることができる。 ・看護を行う際、子どもと家族の理解力に合わせて説明をすることができる。 ・チーム医療を意識し、保育士、院内学級の教員等入院患児に関わる職種とそれぞれの役割について説明することができる。 ・子どもに対して、口腔衛生管理的アセスメントが実施できる。 ・口腔衛生管理上、何が課題なのかを説明できる。 ・口腔衛生が管理できるように、子ども、または親に対して指導が必要な点について説明することができる。 ・口腔衛生管理に関するケアが実施できる。 ・実習期間の関わりを通して、子どもと家族にとっての、well-being について説明することができる。
--	--	--

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN131780	専門	必修	精神看護学実習	実習	2	90	-	3年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 123467								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：中島富有子 担当教員：中島富有子、原やよい、黒岩千翔								
授業の目的とねらい								
<p>精神障害者の最適な生活（well-being）に向け、入院から地域生活における継続した精神看護の修得を目的とする。実習の2週間は、「精神科病棟での実習」1週間、「就労継続支援B型事業所での実習」1週間とする。「精神科病棟での実習」として精神的健康を回復するための看護を学び、「就労継続支援B型事業所での実習」として精神的健康を維持するための看護を学ぶ。「精神科病棟での実習」では、入院治療を受ける精神障害者1名を受け持ち看護過程の展開を行う。「就労継続支援B型事業所での実習」では、社会生活を送り就労を目指す精神障害者の看護を実践する。実習の中で、社会生活を送る上で必要なセルフケア能力を高める精神看護を実践する。「精神科病棟での実習」と「就労継続支援B型事業所での実習」を振り返り、入院から地域生活までの継続した精神看護について考察する。精神的健康を支える法律や社会資源の活用方法、他職種との協調・協働する方法を学ぶ。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 教員が持つ公立病院等の精神科病棟、精神科デイケアにおける精神看護の実務経験を活かし、さまざまな精神の健康レベルにある対象者の最適な生活（well-being）に向け、精神的健康を保持・増進・回復する看護を教授する。さらに、実務経験を基に、他職種と協調・協働した医療を提供する方法、入院から地域まで継続した看護について教授していく。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害者の意思、健康状態や治療、家族の状況を踏まえアセスメントができる。 2) 精神障害者が退院後に最適な生活（well-being）を送るために、解決すべき健康上の問題を説明ができる。 3) 健康上の問題について、原因および誘因、成り行き、精神障害者および家族の対処能力を説明できる。 4) 精神障害者の全体像を病態関連図またはICFの関連図で説明できる。 5) 安全・安楽・自立を踏まえた看護計画が立案できる。 6) 社会生活を送り就労を目指す精神障害者の看護について説明できる。 <p>2. 態度形成 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護を提供するために必要な倫理観を養う。 2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度を養う。 <p>3. 技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護を実践するためのコミュニケーション技術が修得できる。 2) 精神障害者のアセスメント方法を修得できる。 3) アセスメント結果を踏まえて、病態関連図またはICFの関連図を使い、患者の全体像捉える方法を修得できる。 4) 精神障害者の健康上の問題を明らかにする方法を修得する。 5) 科学的根拠に基づく看護目標・看護計画立案方法が修得できる。 6) 看護計画に基づき、患者の状態を観察しながら看護を実施する方法が修得できる。 7) 精神的健康に向けた看護の評価方法が修得できる。 8) 精神看護に対する考え方について、レポートにまとめることができる。 								
準備学習								
精神看護学概論、精神看護論、精神看護論演習の授業内容を復習しておく。精神看護実践に必要な事前学習をレポートにまとめておく。								
成績評価基準								
実習評価表に基づき実習目標の達成度を評価し、実習担当教員が実習指導者と協議し、総合的に評価する。提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。								
課題等に対するフィードバック								
日々の実習の中で、実習指導者および実習担当教員から助言を受け学習を進めるようにする。実習要項の実習進度をもとに日々の実習計画を立案する。日々、学びと課題を明らかにしながら、翌日の課題は、前日の実習時間内に見通しをつけられるよう、積極的に取り組み指導を受ける。								
教科書・参考書など								
<p>（教科書）</p> <p>武井麻子 他（著）「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学(1)」医学書院 2021</p> <p>武井麻子 他（著）「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学(2)」医学書院 2021</p> <p>（参考書）</p> <p>萱間真美 他（著）「精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス」南江堂 2015</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
	中島・原・黒岩	<p>1. 精神科病棟での実習（1週間）</p> <p>1) 入院治療を受ける精神障害者の看護過程を展開する。</p> <p>(1) 受持った精神障害者について、健康に関する情報を収集する。</p> <p>(2) 情報を身体的な問題、精神的な問題、生活上の問題として整理する。</p> <p>(3) 整理した問題のアセスメントを行う。</p> <p>(4) 病態関連図を書き、患者の全体像をつかむ。</p> <p>(5) 健康上の問題を明らかにして、優先度を考える。</p> <p>(6) 看護目標を設定する。</p> <p>(7) 目標到達に向けた科学的根拠に基づく看護計画を立案する。</p> <p>(8) 看護計画に基づき、患者の状態を観察しながら看護を実施する。</p> <p>(9) 精神的健康回復に向けた看護の評価を行う。</p> <p>2) 精神的健康回復のためのコミュニケーション方法について学ぶ。</p> <p>2. 就労継続支援 B 型事業所での実習（1週間）</p> <p>1) 地域生活を送る精神障害者の看護を実践する。</p> <p>(1) 精神障害者について、健康に関する情報を収集する。</p> <p>(2) 情報を身体的な問題、精神的な問題、生活上の問題として整理する。</p> <p>(3) 整理した問題のアセスメントを行う。</p> <p>(4) ICF の関連図を書き、生活の全体像をつかむ。</p> <p>(5) 患者の状態を観察しながら、就労支援を含む看護を実施する。</p> <p>(6) 精神的健康を維持し社会生活が送れる看護の評価を行う。</p> <p>2) プロセスレコードを通し、コミュニケーションの傾向を抽出及び自己洞察を行う。</p> <p>3. 看護専門職者の責務及び態度</p> <p>1) 精神看護を提供するために必要な倫理観について考える。</p> <p>2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度について考える。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031711	専門	必修	高齢者看護学実習	実習	2	90	-	3年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3. 4. 5								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：宮園真美 担当教員：宮園真美 町島希美絵								
授業の目的とねらい								
<p>成人看護学、高齢者看護学、急性期・クリティカル看護論、周術期・回復期看護論、慢性期看護論、緩和ケア看護論を基盤とし、疾病と障害を持ちながら生活する成人期、老年期にある対象者を全人的に理解し、対象者および家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための看護を修得する。</p> <p>対象者の健康段階、健康障害、加齢による身体諸機能低下、生活史を踏まえ、高齢者および家族の健康上の問題を理解し、退院後の最適な生活（well-being）を見据えた看護実践方法を学ぶ。</p> <p>高齢者とコミュニケーションを図り、人間関係を構築し、病気や入院治療が高齢者に与える影響を理解するとともに入院治療を受ける高齢者に対する看護過程の展開方法を理解する。その中で、高齢者の健康問題に応じた口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。また、医療チームにおける他職種との協調・協働について理解する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>病院勤務における様々な疾患を持つ成人および老年期にある対象への看護経験を活かし、対象の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象が活用できる社会資源や保健医療福祉制度について説明できる。 2) 対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、高齢者に生じている健康問題を説明できる。 3) 対象および家族を取り巻く他職種との協調・協働方法を説明できる。 <p>2. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象とのコミュニケーション能力を身につける。 2) 対象との援助的人間関係を構築する上で看護者として必要な態度を修得する。 3) 看護の役割についての理解を深め、自己の学習課題を明確にする。 <p>3. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者及び家族の健康支援に必要な看護過程を展開する。 2) 多職種チームの一員として行動できる。 3) 対象者とのコミュニケーションができる。 4) 対象者を尊重する態度で接する。 5) 対象者の健康問題を解決するための看護技術を一部実践する。 								
準備学習								
提示された予習の項目、受持ち入所者の疾患や状態の事前学習								
成績評価基準								
提示された評価表に沿って総合 100 点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
事前課題、課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。								
教科書・参考書など								
<p>(教科書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新体系 看護学全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 2) 老年看護学概論 南江堂 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 5) 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図第2版 医学書院 <p>(参考書)</p> <p>適宜指示する</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
	宮園真美 町島希美絵	1. 成人期から老年期に関わる保健医療福祉制度について理解する。 1) 高齢者保健医療制度の概要について説明できる。 2) 医療制度における医療機関が求められる役割を説明できる。 3) 医療・介護サービスの保障の強化目的を説明できる。 4) 介護保険法の制定とねらいを説明できる。
	宮園真美 町島希美絵	2. 成人期から老年期にある対象との援助的人間関係を構築する上で看護者として必要な態度を修得する。 1) 生きてきた過程、多様な価値観、家族・社会的役割などを尊重した態度で接することができる。 2) 対象および家族が抱く思いについて説明できる。 3) 対象者の潜在的・顕在的な能力に目を向けて、肯定的な態度で接することができる。 4) 対象者の自己決定を尊重できるような態度をとることの必要性を説明できる。 5) 対象者および家族と良好なコミュニケーションが取れる。 6) プライバシー保護をはじめとした倫理的配慮ができる。 7) 看護チームの一員として適切に報告・連絡を行うことができる。
	宮園真美 町島希美絵	3. 成人期から老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、高齢者が生じやすい健康問題を明らかにする。 1) 加齢によって生じている諸機能の変化について説明できる。 2) 加齢による身体的・精神的・社会的特徴を把握するために必要な情報を説明、記述できる。 3) これまでの生きてきた過程、生活習慣、家族背景などを説明できる。 4) 加齢に伴い生じやすい健康問題を明確化できる。 5) 入院、治療などによって生じる身体的・精神的・社会的特徴に与える影響を説明できる。
	宮園真美 町島希美絵	4. 退院後の生活を見通した高齢者及び家族の健康支援・生活支援が可能な展開方法を修得する。 1) 対象者を、身体的・精神的・社会的(霊的)側面から総合的にアセスメントできる。 2) 加齢に伴う変化や個別性を考え最適な生活(well-being)を目指した看護目標を設定できる。 3) 対象を総合的に理解するために、評価スケール等を活用して分析できる。 4) 対象の老化の程度や機能の低下などに考慮した安全・安楽な援助を立案し、実施できる。 5) 対象者の生活機能を整えるために必要な支援方法を選択し、援助を実施できる。 6) 実践した看護の評価・考察ができる。 7) 対象者の健康問題に応じた口腔を起点とした全身の健康支援ができる。 (1) 口腔の器質的及び機能的変化が全身の健康へ及ぼす影響をアセスメントできる。 (2) 摂食・嚥下機能を維持・向上させるための援助方法を説明できる。 (3) 対象者のニーズに沿った口腔の健康に関する看護計画立案と実践ができる。 (4) 実践した口腔の健康支援について評価・考察ができる。
	宮園真美 町島希美絵	5. 対象者および家族を取り巻く他職種との協調・協働方法を理解する。 1) 退院後の生活を送る上での問題点を明確化できる。 2) 生活機能を維持するために必要な社会資源について説明できる。 3) 地域生活を守るために必要な他職種の役割を述べられる。 4) 健康生活を支援するために必要な看護専門職の役割について説明できる。
	宮園真美 町島希美絵	6. 成人期から老年期にある対象への看護の役割についての理解を深め、自己の学習課題を明確にする。 1) 主体的、積極的に実習に臨むことができる。 2) 自己の考えをカンファレンスなどで明確に発言できる。 3) 自己の高齢者観と高齢者看護について説明できる。 4) 対象者に対する自己の看護を振り返り、学習課題を明確化できる。 5) 口腔の健康支援における自己の課題について明確化できる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031712	専門	必修	在宅高齢者看護学実習	実習	2	90	-	3年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3. 4. 5								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：宮園真美 担当教員：宮園真美、角森輝美、山中富								
授業の目的とねらい								
<p>3年生の後期にあるこの科目では、高齢者看護論演習を受けて、高齢者療養支援看護学実習とともに展開される。高齢者のもつ潜在的・顕在的な能力に着目して、高齢者および家族の最適な生活（well-being）を目指した健康の保持・増進への看護実践方法を学ぶ。地域生活を送る高齢者及び家族の健康支援、施設に入所して生活する高齢者および家族の健康支援をそれぞれ体験し、高齢者の生きがいやQOL向上のための援助を理解する。その中で、高齢者の生活行動障害に応じた口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 病院勤務における様々な疾患を持つ高齢者への看護経験を活かし、高齢者の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域で生活を送る高齢者および家族に必要な社会資源について説明できる。 2) 地域で生活を送る高齢者および家族が抱える健康問題や生活行動障害について説明できる。 3) 地域で生活する高齢者および家族の健康支援・生活支援方法について説明できる。 4) 保健福祉施設で生活を送る高齢者および家族に必要な社会資源について説明できる。 5) 保健福祉施設で生活を送る高齢者が抱える健康問題や生活行動障害について理解する。 6) 施設で生活する高齢者に対する健康支援・生活支援方法を理解する。 <p>2. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者とのコミュニケーション能力を身につける。 2) 高齢者を尊重する態度で接する姿勢を持つ。 <p>3. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健福祉施設で生活を送る高齢者が抱える健康問題や生活行動障害について理解し一部を実践できる。 2) 施設で生活する高齢者に対する健康支援・生活支援方法を理解し発表できる。 3) 高齢者とのコミュニケーションができる。 4) 高齢者を尊重する態度で接する。 								
準備学習								
提示された予習の項目、受持ち入所者の疾患や状態の事前学習								
成績評価基準								
提示された評価表に沿って総合100点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
事前課題、課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。								
教科書・参考書など								
<p>（教科書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新体系 看護学全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 2) 老年看護学概論 南江堂 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図第2版 医学書院 <p>（参考書） 適宜指示する</p>								

授業内容	
担当教員	授業内容
宮園真美、角森輝 美山中富	1. 地域で生活を送る高齢者および家族に必要な社会資源について 1) 保健医療福祉制度における、通所施設の役割 2) 利用者が通所施設を活用する目的や理由 3) 地域住民が主体で行うボランティア活動の目的と内容 4) ボランティア活動が高齢者に与える影響について
宮園真美、角森輝 美山中富	2. 地域で生活を送る高齢者および家族が抱える健康問題や生活行動障害 1) 高齢者とコミュニケーションを図り、地域生活について 2) 高齢者とコミュニケーションを図り、高齢者の健康問題について 3) 高齢者を尊重した態度
宮園真美、角森輝 美山中富	3. 地域で生活する高齢者および家族の健康支援・生活支援方法について 1) 通所サービスで行われている活動体験 2) 地域で生活する高齢者および家族の健康の維持・増進に向けた支援方法を 3) 地域で生活する高齢者に対する集団指導方法 4) 健康的な地域生活を支援する看護専門職の役割 5) 地域で生活する高齢者の生活支援・健康支援に必要な他職種との協調・協働 6) 通所施設が企画するイベントに参加し、地域住民が主体となった高齢者への生きがい作りや仲間作り
宮園真美、角森輝 美山中富	4. 保健福祉施設で生活を送る高齢者および家族に必要な社会資源について 1) 保健医療福祉制度における、施設の役割 2) 入所者が施設を活用する目的や理由 3) 入所者が利用しているサービスの種類
宮園真美、角森輝 美山中富	5. 保健福祉施設で生活を送る高齢者が抱える健康問題や生活行動障害について 1) 高齢者とのコミュニケーション、援助関係構築 2) 高齢者を尊重した態度 3) 高齢者の潜在的・顕在的な能力について説明 4) 加齢や健康障害に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化について説明
宮園真美、角森輝 美山中富	6. 施設で生活する高齢者に対する健康支援・生活支援方法 1) 加齢に伴う変化や個別性を考え最適な生活（well-being）を目指した看護 2) 保健福祉施設における看護師の役割 3) 高齢者を総合的に理解するために、評価スケール等を活用して分析 4) 高齢者の老化の程度や機能の低下などに考慮した安全・安楽な援助計画立案、実施 5) 高齢者に対する自己の看護を振り返り、学習課題を明確にする 6) 高齢者の口腔の状態に応じた健康支援・生活支援方法 (1) 高齢者の摂食・嚥下機能を維持・向上させるための援助方法 (2) 口腔の健康支援の評価方法 (3) 口腔の健康支援における自己の課題
宮園真美、角森輝 美山中富	7. 医師、歯科医師、介護福祉士、歯科衛生士といった他職種との協調・協働方法 1) 対象を取り巻く他の専門職者がどのように協調・協働しているかその実際 2) 施設で使用されているケアプラン等を他職種でどのように共有し活用しているのか説明 3) 各職種の実践場面、ケースカンファレンスなど情報共有の場を通して、それぞれの職種の役割、機能、協調・協働方法について説明 4) 他職種の実習生との合同カンファレンスの時に、看護専門職としての考えを伝える 5) 他職種の実習生の意見をそれぞれの職種の考えとして捉え、看護専門職の役割を説明 6) 口腔の健康支援を通しての高齢者の全身的な健康状態及びQOLを高める援助について考えを述べる
宮園真美、角森輝 美山中富	8. 地域や施設などで生活する高齢者の健康の維持・増進に向けた余暇活動支援や健康支援活動について 1) 高齢者の生きがいや楽しみにつながるレクリエーション活動及び口腔機能向上に関連する援助活動 2) 教員、指導者の助言の下で計画にそって、具体的な看護援助を実施 3) 高齢者の反応を確認し、援助の評価 4) レクリエーション活動が高齢者の身体的・精神的・社会的側面に与える影響 5) 高齢者の健康の維持・増進に向けた余暇活動支援や健康支援活動について意見交換

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN031713	専門	必修	訪問看護論実習	実習	2	90	-	3年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3. 4. 5								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：宮園真美 担当教員：宮園真美 宮坂啓子、松尾里香								
授業の目的とねらい								
<p>3年生の後期にあるこの科目では、地域および在宅看護において看護者が対象者や家族に行う最適な生活（well-being）に向けた看護を見学し、訪問看護師や地域住民の健康を維持する活動を行っている指導のもとに訪問看護および公民館活動の実践を行う。訪問看護では、疾病や障害を持ち地域生活を送る療養者および家族とコミュニケーションを図り、看護に必要な身体的・精神的・社会的な情報を収集し、看護過程を展開しその技術を理解する。また、地域における健康支援活動に参加し、その中で、生活の質を高めるための在宅における口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。また、社会資源の利用、入院から退院後の在宅療養への継続した看護や他職種の協調・協働の実践を学ぶとともに、地域・在宅で療養する対象者及び家族に対する看護を学ぶことを目指す。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 地域公衆衛生看護、訪問看護、病院における様々な対象への看護経験を活かし、対象の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。</p>								
到達目標								
1. 知識 1) 在宅療養者や家族の生活を支える社会資源、在宅ケアシステムと、その中での看護職の役割・機能を理解する。 2) 在宅看護に必要な看護技術およびその特徴について理解できる。 2. 態度 3) 在宅看護においての理解を深め、自己の学習課題を明確にする。 3. 技術 1) 療養者および家族との援助的人間関係を構築する上で看護職として必要な態度を修得する。 2) 療養者の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、療養者および家族を理解する方法を習得する。 3) 療養者および家族の well-being を目指した看護過程を展開し、在宅で看護を実践する方法を修得する。								
準備学習								
提示された予習の項目、受持ち療養者の疾患や状態の事前学習								
成績評価基準								
提示された評価表に沿って総合 100 点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
事前課題、課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。								
教科書・参考書など								
(教科書) 1) 河原加代子他 著 「在宅看護論」 医学書院 2) 村松静子 編著 「新体系 看護学全書 在宅看護論」 メヂカルフレンド社 3) 渡辺裕子 監 「第3版 在宅看護論Ⅱ実践編」 日本看護協会出版会 (参考書) 適宜指示する								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
	宮園 宮坂 松尾	ユニット1 訪問看護ステーションおよび多職種連携に関する理解：宅療養者や家族の生活を支える社会資源、在宅ケアシステムと、その中での看護職の役割・機能を理解する。 1) 在宅療養者や家族を支える社会資源や諸制度について実践を踏まえて説明できる。 2) 介護保険を理解し、在宅看護と訪問看護ステーションの役割を説明できる。 3) 様々な社会資源の実態を把握し、活用の必要性を説明できる。 4) 他職種でのチームアプローチと、その中での看護職の役割を説明できる。						

宮園 宮坂 松尾		<p>ユニット2 援助的人間関係：療養者および家族との援助的人間関係を構築する上で看護職として必要な態度を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者および家族と良好なコミュニケーションが取れる。 2) 療養者および家族の置かれている状況、多様な価値観、家族関係などを尊重した態度で接することができる。 3) 療養者および家族が抱く思いについて説明できる。 4) 療養者および家族が持つ力が最大限に発揮できる看護を考え述べるができる。 5) 療養者および家族の自己決定を尊重することの必要性を説明できる。 6) プライバシー保護をはじめとした倫理的配慮ができる。 7) 看護チームの一員として適切に報告・連絡を行うことができる。
宮園 宮坂 松尾		<p>ユニット3 対象理解：地域在住者および在宅における療養者の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、療養者および家族を理解する方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域在住者および療養者を全人的に把握し情報を記述できる。 2) 地域在住者および療養者および家族の健康上の課題と生活への影響について把握し、健康上のニーズを説明できる。 3) 地域在住者および療養者および家族の実際の生活に触れ、生活の特徴や価値観の多様性を説明できる。 4) 家族看護の学びを活かし実際の家族機能の力およびその介護力を説明できる。 5) 公民館活動を通して、地域在住者の生活と看護の課題を考察する。
宮園 宮坂 松尾		<p>ユニット4 well-being を目指した看護過程：療養者および家族の well-being を目指した看護過程を展開し、在宅で看護を実践する方法を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者を、身体的・精神的・社会的(霊的)側面から総合的にアセスメントできる。 2) 療養者や家族が望む生活を支えながら、課題を解決する目標を設定できる。 3) 対象者の在宅療養継続や QOL に即した看護計画を立案できる。 4) 指導者の下、療養者の安全・安楽を考慮した看護計画の実践を行うことができる。 5) 実践した看護計画について客観的に評価し、次の看護計画の実践へ展開することができる。 6) 生活の質を高めるための在宅における口腔を起点とした全身の健康支援について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 療養者の口腔のアセスメントができる。 (2) 療養者のニーズに沿った口腔の健康に関する看護計画立案と実践ができる。 (3) 口腔の健康支援について評価・考察ができる。
宮園 宮坂 松尾		<p>ユニット5 在宅における看護技術：在宅看護に必要な看護技術およびその特徴について理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅におけるケア方法の工夫および在宅看護で行われている看護技術について、実践方法を説明できる。 2) 難病、ターミナル期、認知症など療養者固有の看護サービスについて、実践を通して学びを説明できる。
宮園 宮坂 松尾		<p>ユニット6 自己の学習課題：在宅看護における理解を深め、自己の学習課題を明確にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主体的、積極的に実習に臨むことができる。 2) 自己の考えをカンファレンスなどで明確に発言できる。 3) 対象の生活領域に訪問する看護に携わった自己を振り返り、学習課題を明確化できる。 4) これまでの学びを基に自己の看護観を述べるができる。 5) 口腔の健康支援における自己の課題を述べるができる。



福岡看護大学

FUKUOKA NURSING COLLEGE

看護学部看護学科

〒814-0193

福岡市早良区田村 2 丁目 15 番 1 号

TEL : 092-801-0485 (教務課)